愛國婦人

定價一部金參錢五厘　一ヶ月金七錢半　年分四拾貳錢全[illegible]　郵稅無料
廣告料一行六拾錢
本號全部非賣品

每月二回　五日廿日發行
發行所　東京麴町區(半ヶ藏公園)　愛國婦人會發行所
編輯兼發行人　山澤俊夫
印刷人　永持德一

帝國唯一最廉最良の家庭教育雜誌の大發展!!

本號には特に附錄四頁を添ふ!!

社說

婦人と道德

婦人の役目は色々あり、中にも、良く家を治め、夫を助け、子女を敎養するが如きは、その大切なるものに相違なし。されどこれだけにては、なほ婦人の役目は全からず。この外婦人には、家庭及び社會の道德を維持し、上進せしむる大なる役目あることを忘るべからず。

家庭の品位は、即ち主婦の品位にして、家庭の墮落は、取りも直さず主婦の墮落といふことなり。社會に於てもまた斯の如く、その道德の健全なると否とは、主として婦人の品性如何に因るものなり。

婦人の氣力旺盛にして、善を好むこと、飮食の如く、惡を憎むこと蛇蝎の如くなりし時代に在りては、家庭、社會の道德共に健全にして、人間が如何にも立派なりしも、婦人が、物質的欲望の奴隷となり、肉體的快樂に沈溺して、精神氣魄の何たるやを忘れたる時代は、即ち道德の敗頽、人間墮落の時代にして、延いて國家の衰滅を招きし例少なからざるなり。

然らば今日我が國道德の有樣は如何。我等は如何に贔屓目に見るも立派なり健全なりといふこと能はざるを憾む。近來我が國は殖產工業勃興して、物質上の進步は驚くべきものありと雖も、精神的進步これに伴はず、黃金はすべてを支配し、人は唯外見、肉慾の奴隷となりて、精神荒敗し、道德地を拂はんとするの傾きあり。宏壯なる建築、美麗なる粧飾は、都市の面目を一新し、衣服に、車馬に全盛を誇るもの、往來織るが如く、イルミネーション、花火、樂隊、歡迎會、慰勞會、芝居、ダンス等花々しきことにて、見た所如何にも立派なれども、これは物質的文明といふものにて、昔から國も社會も人間も、皆これでしくじり居るなり。物質的文明固より惡しからず、されど精神的文明これに伴はざれば、得て、黃金の崇拜となり、外見肉慾の奴隷となり、義理人情は引込み、道德心衰へて、盛裝したる動物と、得て人間が成り下るものなり。今の日本も、少々それになりかけの所ありて表面目覺むるばかり立派なると同時に、裏面の墮落は、嘔氣を催すが如きものあり。人は撲り倒しても、自分さへよければよいといふ連中多く、正直に自己の額に汗して、生活し行く者は、馬鹿者にて、お目出たい人間にて、何でもずるく、すばしこく、必要とあらば、嘘もいひ、胡麻かしもやつて、後は何うならうと、人が困らうと、そんな事を氣にして、世が渡れるか、義理の絲瓜のは、昔のこととなり、何が何でも、兎に角金を引たくつて、甘い物を食ふて、仕たい放題の道樂をして、面白ろ可笑しく暮らすが、當世といふものなりとの了見故、道德がまるでなつて居らず。賄賂は到る處に行はれて、議決も選擧も金次第、舌の使ひ分け、良心の安賣り、金にさへあり付けば、何んな眞似でも仕て見せます、お賴みとあらば、隨分牢にも這入ります、といふ、これで世間道德の進步がどうのかうのと、可笑しくて、物も言へず、餘り情けなくて、淚も出ぬなり。

此時に當りて、一すら賴むは、婦人なり。由來婦人は、道德の維持者なり、洗淨者なり、向上者なり。昔より婦人が、妻として、母として、夫、子の仕事に勇みを與へ、間違へる了見を翻さしめ、惡を改めて善に向はしめ、未練を去りて、健げなる決心を起さしめ、男子をして、立派に立ち働かしめて、名を揚げ、家を興さしめたるの例證は、枚擧に遑あらず。而してこれは獨り昔のみならず、今の婦人も亦斯の如くならざるべからず。もし婦人の心に確かなる所ありて、唯正善をその生命となし、如何に甘くとも、決して誘惑には應ぜざるの覺悟さへあらば、こは決して出來難き事にあらず。例へば夫が妻を喜ばさんとて、春着を新調し與へんと言ひ出るとき、妻が、子は多し、内の經濟はそれほどの餘裕なければ、先づ見合せた方然るべしと、止むれば、暮らしに無理が出來ずして、不淺理に陷る事はなきなり。然るにその反對に、夫に催促して、無い中から、矢庭に春着を新調せしめ、内の用事は放つて置いて、交際に出步るき、指環が何時も同じものではいかぬの、折角の時計なれば、序でに金の鎖をもと夫に強請りては、夫もついその氣になつて買ふて遣るより、正當の收入にては、追付かず、借金から始まりて、賄賂が取りたくなり、勝負事が仕たくなり、遂には本當に仕ていよ〳〵墮落とはなり行くなり。されば婦人に望む所は、その踏み止まりなり。婦人が、方便手段の何たるを問はず、唯美服を纏ひ、美味を食ひ、物見遊山專門に樂をして暮らさんなどいふ間違へる了見はさらりと棄てゝ、分限相當の生活をなし、男子を驅りて、不義を行はしむることなく、男子が墮落の道に踏み入らんとすれば、これを支へ止めて、正直なる道に引入るやう、仕向けざるべからず。それには婦人自分の道德堅固にして、忍耐克己の力強からざるべからず。男子が婦人の機嫌を取らんため、物を與れたり、觀せたりせんとしても、不義の富貴は、浮雲の如しと、婦人が跳ねつくれば、男子も張合拔けて無理な算段や不都合なる行はせぬやうなる譯なれば、萬事之に準じて婦人は何處までも、道德に始終せざるべからず。それには一般婦人がうか〳〵せず、今少し確りと踏み答へある人間とならざるべからず。もし能く斯の如くならば、世間道德の維持と進步とに就ては、毫も懸念する所なかるべきなり。

愛國婦人會々員に勸む

橫幕むら子

愛國婦人會々員は日夜愛國の情に驅られその本分を盡しつゝあり。而るに會員にして同會の事業その他要旨を知らざる方々も不尠遺憾の至りなり。雜誌愛國婦人は同會と密接の關係を有し、每月二回此の雜誌を發行して同會の狀態、業務の模樣、成績等細密に涉り、又會計等に至るまで全般を擧げ、尙各府縣の主婦、令孃方の高尙なる高說、經濟、雜報等一家を整へ一身を修むるには、缺くべからざる家庭の參考となり。國家を益する雜誌にして一般の購讀に應じつゝあり。會員諸子中未だ御購讀なき方々は御參考として御高覽あらんことを。これ、今回同雜誌主任に乞ひ、余の直接關係ある神田區の會員諸子に一部を贈呈する所以なり。

愛國婦人會神田區會員諸子に訴ふ

愛國婦人會當神田區會員は現今其數千七百名にして豫定員に對し尙千三百名の不足を告げある次第故當區幹事は日夜心を碎き操せりつゝあるも僅か數名の人員にて千三百名を新に勸誘することは今更云ふまでもなく困難少からず昨四十年十二月當區總會の折一言の意を述べ置きたるが其効僅か百名内外にして遺憾多かるのみならず内には今日國内平和の折なれば當會の不必要云々の御說を立つる方も折々耳に致し居りしも遺樣の人は論外にして平和の折こそ我婦女子は一層勉勵國家に盡す義務を怠るべからざること昨ゝ二月總會の折委しく意を述べ置きし如くにして愛國熱心家なる各會員は孰れも御一人に對し一名の會員を御勸誘下されなば即ち三千四百人となる次第なれば何卒其御心掛を以て偏に御盡力あらん事願はしく猶本年は畏れ多くも皇后陛下御臨幸の榮を得る總會の運びに相成居る次第なれば名譽も亦此上なき事と存じ心碎の餘り會員諸子に誌上を以て御願ひ申上る也右御含みありて是非御熱心御勸誘の程偏に希望の至に堪へませぬ

猶入會の思召ある方は便宜上最寄幹事又は私方迄御一報を願ひなば即時其の手續を致します

神田區南甲賀町　愛國婦人會事務所
主任幹事　橫幕むら[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭の和樂

愛國婦人會大阪支部幹　女子大學評議員　廣岡淺子

和氣藹々たる家庭は、この優勝劣敗の激しい、殺風景極まる世の中に、丁度仲春の趣を與へるものであります。春は天地萬物の發展を來すものである如く。人も世の艱難辛苦に鍛はれつゝ、一方温かき家庭の中で豊かに、春の光に浴しつゝ心身の發達を計る事が出來るものであります。

さてこの大切な家庭の和樂は誰れの手――誰れに求めて得らるゝものでありませうか。普通、家庭の平和を亂すものは、舅姑が居る爲めであるとか、夫が專制君主の如し、獨り權威を恣にするからであるとか云つて舅姑や――夫に罪を被せたがるものが多々ありますが、併今一歩その根本に立ち入つて調らべて見れば――家庭の不和といふ原因の大半は其家庭を掌る主婦に責のあることは明かである。主婦たる者が全く一身を捧げ即ち犧牲の心を以て、家庭を經營したならば、決して家庭の和樂を求められぬ事はありますまい。人が生れて枯木でなく、死灰でない以上、美しい精神――温き情には――必ず〱動かされるものである。春光に浴して春を知らない者はない如く。舅姑や夫の不機嫌は、また〱この身の不調法であるからと、何事も人に求めず、何處までも自身を責めて、辛苦を厭はずに勉めたならば、不親切な冷酷な者も、我儘な人も、何時か其の非を悔ゐて來る――一家の和合は――和樂は――三冬の寒は去つて春風駘蕩の暖氣は自然と見舞ふて來るのであります。昔から婦道として稱へられ、舅姑に仕ふる道、夫に仕ふる道、子供を育つる道等は――詮ずる所、この犧牲の精神になるのである。――犧牲の精神あつて、未だ其家庭の和氣が保たれぬと云ふ人は、畢竟ずるに――口の人であつて――實踐しない人であります。口にのみ云ふて――躬行を省みない淺薄の婦人である。――犧牲と卑怯とは混同すべきものでない。卑怯は女子の人格を次第に縮めて行くものでありますが――犧牲は女子の人格を益々大ならしむるもの自己を擴大するものである。一粒の種子が死んでこそ初めて多くの果を結ぶことが出來るので、人も自己を捨てゝこそ漸くに立派な結果――嬉しき實を見る事が出來るのであります。人格は立派な結果に依つて大きくなり――高められて行くもので、婦人の人格が擴大されて――高められてゆくといふことは――家庭にとりて、どれ程幸福でありませうか――眞正の快樂は和氣藹然たる家庭の中に宿る――實に家庭の幸福は人間最大の幸ではありますまいか。

當代百畫選(五)

△墨田の春　木村光太郎氏筆

論叢　近代の文藝(下)

――成美文藝會にて――

早稻田大學教授　島村抱月

先づ一番下の、講談物や、探偵小説は別として、最後の二ッ、所謂最近時の文學と言はれるものと、それから一ッ位前に居る所のものとは、どう云ふ風に違ふて居るかと云ふに――先づ第一其の主人公の性格といふもの――その人物を作り、或は人物を目付ける目付け方が、余程現今とは違つて居るので――著しい變遷をなして居る。

例へば紅葉の書いた『多情多恨』の如き(此『多情多恨』は彼の書いた小説の中一寸一回轉をなした回轉期であると思はれる。これはどう云ふ意味かといふと――『多情多恨』以前に書いた小説の趣向は大さう順當なる人物でありまして餘り風變りのない、一方から言へば普通にある人物を書いたのでありましたが)。この『多情多恨』の主人公柳之助なぞは、餘程以前と風の異つて居る女々しい男子を出したので、この以前は成るべく欠點の少ない人物を書いたものでありましたが、今度は意志の力の殆ど全く欠けて居る處の、執着の甚だしい性格の人を出して居る。あれは確に其の覘ひ所が違つて居るので、このやうに極く女々しい人をして、それが其小説の主人公と云ふことは先づ普通の見方より擢んでゝ居るものである。人生の見方が變つて來て居る。所がこの一種風變りの性格と云ふものが一層進むと云ふと――『青春』に書れた男主人公の如く全く或點に決斷力のない人、決斷の出來ない意氣地のない一種の人間を出して居るこの點は前者と似て居りますが、青春の中の主人公の如き人になりますと、同じ意氣地がないと言つても、餘程複雜な性格になるので、其情の中に深い智の働が加はゝつて來て居る、この決斷の出來ない大いなる理由は、餘り知識が發達して居り、又餘り考が深くなり過ぎて居るからであると云ふやうに、餘程複雜なる意味が含まれて居る次第で、思考しても之を行ふことが出來ないと云ふやうな人が近代は屢々出て來るのであります。是等は即ち思想の人で、頭腦で考へることの深い爲めに行ひ得ないと云ふ人であつて、實行の人でない。といふ複雜なる意味の性格の人間が澤山捉へて書いてある。之を柳之助に比較すると餘程變つて來て居る――性格の作り方、人物の目付け方が異つて來て居るので――時代もまた、其處に興味を持つて來るやうになつたのであります。大變内容が複雜になつて來た。詰り情の中に知識が這入て複雜な働を起して來たので――之が比較的舊い文學と――新しい文學との相違點である。それから又、近來の作物によく見えまするが、同じ人物を目付けるにしても、以前は世の中が忙はしい――煩雜だと云ふことを大變、喧ましく云つたのであるが、遂には之が習慣になつて現今は神經が鈍なつて、外界の弱い刺戟に感じない、と云ふより強烈なる刺戟を享けなければ自分に不明らない、麻痺して居る。絶へず強き刺戟を要求して、興奮して行くと云ふことが多く近代の社會に見へるやうになつた。強き刺戟、強烈なる刺戟を要求して居る人物が見えて居る――強き刺戟を享けて初めて生きた甲斐があると云ふやうな人間が出て來る。英國のキップリングと云ふ人は絶えず鐵砲の音を聞いて居らないと生きて居る甲斐がない、と云ふまで神經が漸々鈍くなつて來て居る。斯う云ふやうに成るべく強き刺戟が來なければ洒張りしないといふ傾向になると云ふことは事實である。作者は爰に目を付けて人物を作り上げる。即ち作者の覘ひ所が變つて來たので、成るべく複雜な強き味を爲さしむると云ふ譯になるのであります。

(をはり)

以上は成美文藝會における抱月氏の講話を我社外交記者の速記したものであります。文責當方に在ることを明記して置きます。

△衣服の色の配合(上)

日本婦人の好きな衣服の色は澁みのある不純の色、寒い色、強い色、暗い色で、純な色、温い色、弱い色、明い色は重に大きい部分に對する小部分に用ゐると云ふ傾がある△例へば羽織や上衣は紺、紫、其他の色を用ゐて赤とか緑、黄とかいふ色を襟や帶揚などに使ふて居る△色にはなか〱意味のあるもので、劇なぞは流石によく研究したもので、忠臣藏の由良之助、之が面眞目な由良之助の時分には黒い衣服を着け、浪人となつてからも當時の流行て矢張り黒だが、祇園の一力で放蕩者を粧ふ場合には紺を用ゐた。併し紺は未だ沈滯の意味があるので先々代の團十郎が紫に變へて大當りを取つた。尤も此際にも部下の一味徒黨の者に遇つて密計を聞くと云ふやうな時には比較的に堅い眞面目な褐色を用ゐた

(於大日本婦人教育會演舌)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界の婦人

佛蘭西婦人氣質

東京外國語學校、陸軍砲工學校教授、佛國人　ジャクレー

佛國婦人の眞相は世界に認められず――ブリユー氏の脚本「佛蘭西婦人」――少壯米人とゴンチエー婦人

□歐米諸外國人は、屢々佛國婦人は不品行であるとて惡ざまに云ひふらすのであるが、此等の外國人は、大方佛國の小說(Les romans Français)――から云ふ小說は多くは外國人の好奇心を惹くやうに作つたもので、眞の佛國人の風俗を示して居らぬ――外國人が巴里で觀た演劇の脚本(これとても眞相は穿つては居らぬ)、若しくは、首府の遊所で外國人が認めた佛蘭西の女(Les Femmes qu'ils reconfrent dans les lieux de Plaisir de la capitale)なぞに就いて判斷するばかりて、その判斷が正當で無いと思ふ。

巴里の犬商人（說明は第四段にあり）

□ボアレ(Poiré)の『佛蘭西旅行記』(Voyage en France)に斯う書いてある。巴里は世界待合の一種て、巴里風俗の猥褻を最も利用する外國人は、最も佛國人を誣ふるものであると。

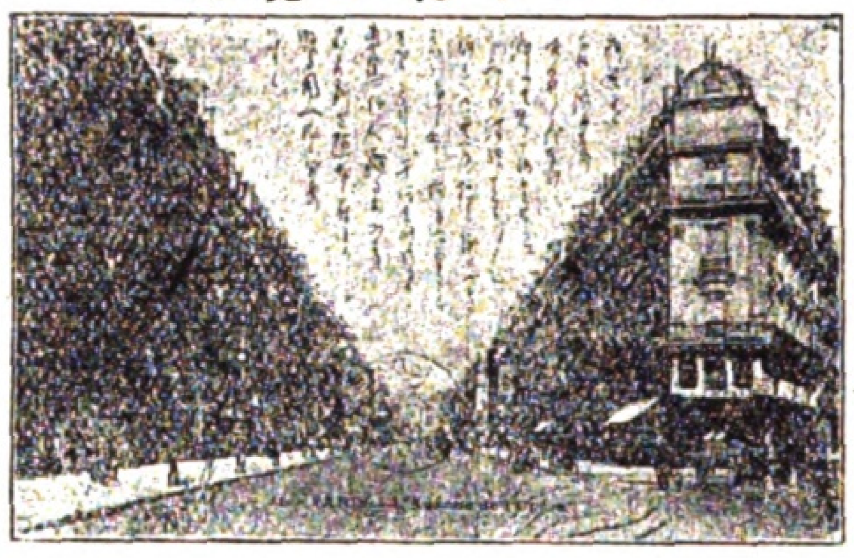
□また、有名な近世の脚本家ブリユー氏(Brieux)は千九百七年四月に『佛蘭西婦人』(La Française)と云ふ脚本を著はし、佛國人に對する外國人の誣言に對して抗辯し、佛國婦人の爲めに、其の無實であることを辯明して居る。

□バルトレットと呼ばれたる一少壯米國人(Un Genne Américain, Bartlett)は、ゴンチエーと呼ばるゝ一佛國婦人(Une dame Française, M me Gontier)に對して敬意を缺いたのである。するとゴンチエー婦人は過度に激怒て、彼の米人に退去を強ゐた。が、バルトレットは辯解せんことを勉めて曰へるやう、許されたし。(Je vous demande pardon)。予は此のやうな例外に遭遇はふとは、夢にも思はなかつた。ゴンチエー婦人重ねて曰く、はて何と云はるゝぞ。バルトレット「實に、予は了解に苦しむ(Je n'y Comprends plus rien!)。十年間、予は米國て佛蘭西風俗を顯はした佛國の小說を讀んだのであるが、其小說中には常に不品行な婦人ばかりを描いてあつたのである」と。

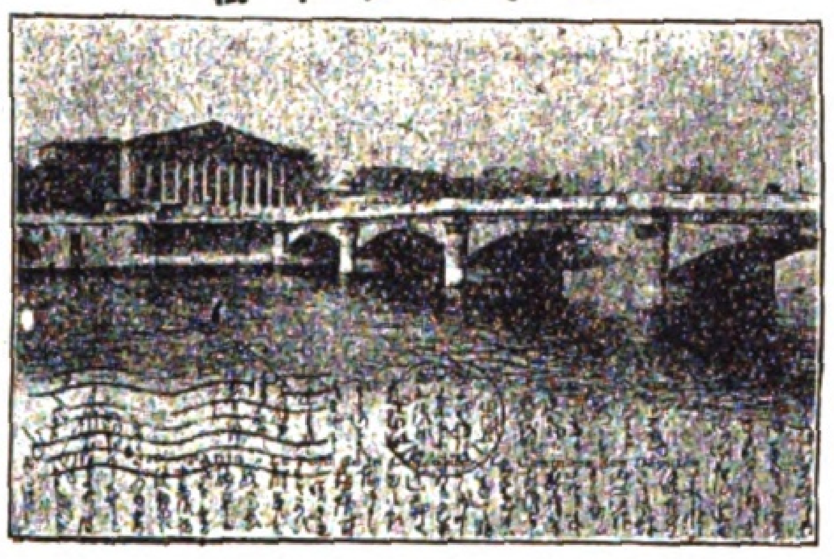
□バルトレットは更に語を續け、「巴里に於て、予は連續四夜種々の劇場に趣いたのである。併し、予の見た劇の女主人公は、常に一人又は二人の情人が有つた。故に巴里て交際場裡に立つ婦人は……」。

□ゴンチエー「我佛國の小說、演劇若しくは貴君を其家にて待遇する女のみを以て佛國婦人を判斷するは誤りてある。貴君が物を見、又は書を讀みて得る知識は佛蘭西婦人の眞相を知るに就いて何の益する所も無いのである。

□「佛國には勿論、品行方正の婦人が居るのである、然し貴君や、他の外國人は彼等を見ないのである。しかも、此等の婦人は佛蘭西人の大多數を占めて居て、其の夫、小供の間に在つて、其の家庭の中に生活して居るので、此家庭の中には勿論貴君は進入ることが出來ぬのであると、云ふのは、英獨人等の家庭に下宿するのは容易いことではあるが、佛國人の家庭は日本のと同じく容易に下宿することが出來ないのであります。



オペラ街の光景



コンコルド橋

□「當に、それのみならず、佛蘭西家庭の眞相は、巴里の散步場や、寄席や、外國人を主とせる遊所等では見ることが無論出來ぬのであります。」

□以上ゴンチエー婦人の物語りに、耳打ち傾けて居たバルトレットは曰へるやう「許し給へ、予は知らざりき(Je ne Savais Pas Mon excuse)之は甚だ珍しきことなり。佛人は其の缺點に付き、自慢し、且つ善良なる性質を隱匿するものてある。若し豫め之れを知らされば、他の外國人等も、予と同樣の誤解を生ずべし。」

□右述べた處に依つても、如何に佛國婦人の眞相が、世界から誤られて居るかが明らかなことゝ思はれる。

挿畫の說明

【其一】巴里の犬商人――中央に稍や大きな寫眞版にして出したのが、即はちこれて『佛蘭西の美し國』(Le beau Pays de France)と云ふ美しい書籍に掲げられた挿畫の一つてあります。場所は巴里シャンゼリゼー(Champs-Elysées)街、右手に小犬を一匹持つた老人は、その前に並べた小犬に種々の藝をさせながら犬を賣つて居ります。

【其二】オペラ街(L'avenne de L'Opera)――これは巴里屈指の街の一なるオペラ通りて、有名なるグランド　オペラは此の寫眞版ては能く解らぬか知らぬが眞正面の突當りにあるのてす。日々午後三時頃から車馬行人織るが如くなるのださうです。これはオペラが初るからなので。

【其三】コンコルド橋(Le pont de la Concorde)――この寫眞版に目立つて見えるのが、コンコルド橋てあります。この橋の下を流れて居るのが彼のセーヌ河、このセーヌ河に添ひて汽車は地下を通つて居ります。

◉船來品に優る高等のオペラ香水は發明せられたり
◉オペラ香水は香氣高尚無比にして耐久力に富み紳士貴婦人間に高評を博し愛國婦人諸姉の御愛用は殊に盛なり

オペラ香水　中瓶七十錢
右中瓶の外大瓶定價壹圓八十錢小瓶四十錢懷中瓶廿五錢

久邇宮妃殿下賜御買上之榮
松方侯爵家御愛用
東郷大將邸御愛用
伊東元帥邸御愛用
高崎御歌所長邸御愛用

オペラ香油　小瓶二十錢
右小瓶の外大瓶定價五十錢中瓶卅五錢

◉オペラ香油は和洋香油中の最進最良なるものなり
◉オペラ香油を愛用せらるるときは芳香芬々百花頭上に笑ふの想ひあり
◉オペラ香油は髮の汚れる憂なく色澤を增し發育を助け癖毛を正すの妙効あり

本香水香油發明の目的は外入品を防遏して國益を裨補するにあるを以て愛國婦人會諸姉に對しては一割引無料送品の特別扱法の設けあり故を以て御注文甚た盛なり

發賣元　東京日本橋區米澤町一丁目一番地　鳳舞園　電話浪花四〇三九番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

料理の栞

家庭簡易 西洋料理法

私立英語專門櫻井女塾長　櫻井ちか子

QUEEN'S TOAST.

Fry slices of stale baker's bread in boiling lard to a fine brown. Dip each slice quickly in boiling water to remove the grease. Sprinkle with powdered sugar, and pile upon a hot plate.

Before toasting, cut out the slices with a round cake-cutter, taking off all the crust. They look better when piled up. Pour sweet wine sauce over them when hot, and serve at once.

クイン、トースト（揚げパン）

硬くなりたるパンを薄く切りて煮立ちたるラードの中で鳶色になる迄揚げて後油氣を取り去る爲め、手早く煮湯の中に一寸入れ、直ぐに出して溫め置きたる皿の上に積みて、砂糖少しをふりかけるのです。揚げる前にパンの縁の硬き處を切り去り、丸くても、四角にても、格好よく切れば、出す時に體裁かよく見えます。

注意　是は一寸茶菓子にもなりビール、葡萄酒の副食物ともなります、酒類に副へる時は砂糖をかけない方がよいのです。

又此菓子に揚げたる後、直に罐に詰め置けば、數日間は保ちますから、旅行用などには適當です。

此揚パンに葡萄酒とバタにて製したるソースをかけても、よいのですが、其ソースの製法は次號に出します。

會員諸姉に

愛國婦人會

先般來本誌擴張の件に就き諸姉御宅を訪問致さしめ候ふ事務員中不行屆の者之れあり或る方々は特に不快に思召され候由に就き此處に謹んで右御詫致し置き、且今後は本會と同時に本誌に對し深き一層の御同情を寄せられ度懇願候也

女德論叢表紙圖按募集の結果は來る五月五日發行の本誌第百五十二號に發表すべし右こゝに豫告す

支那料理法

成女學校講師　津川千代子

▲清湯丸子　材料（五人前）

豚肉六十目○生姜一個○ほうれん草五本○鹽、胡椒、醬油少許○葱小一本○スープ

豚肉をよくたゝき、または挽肉にして、葱と生姜を微塵に切りて其肉に混ぜ合せ鹽少許を更に此中に入れ、スープを火にかけて此肉を拇指のさき程の大きさにまるめて入れて、十分にゝえたてころ、上に浮いたあくをすくひとつて捨て、鹽、胡椒にて味をつけ、醬油少許おとし入れほうれん草の葉を細くきざんで、此おつゆの中に入れてすぐにおろします。

ほうれん草はたゞ青みに入れるだけの事でありますからあまり澤山入れない方がよろしうございます。

▲沙魚片

材料　魚○醬油○胡椒○メリケン粉○鷄卵○ラードまたはヘット

魚は何種の魚でもよろしうございますが、成るべくは比目魚とか鯛とか、肉の白いものがよろしうございます。それをおよそ幅一寸長さ二寸位のうすきそぎみにして醬油につけて十分間位おきます。醬油の分量はたゞ魚に行き渡るだけ、一人前に少さければ五片、大きければ三片位でよろしうございます。それから其醬油につけたまゝ、其上に胡椒をふりかけておいて、外の器に雞卵二個ばかりこはして、それてメリケン粉を、あまり柔くなく、あまり堅くない程にといて、さきの魚のころもにして、揚げます。

其揚げるには、ヘットかラードをよく煮たてゝ其中に一片づゝ入れて揚げるのであります。

神經質の治療法（所謂文明病に就て）（其五）

醫學博士　土田卯三郎

茲に注意すべきは殆んど相類したる精神的執務者にして、其位地に由て執務時間と休養時間の關係甚だ不公平なることなり。例令ば銀行會社等の頭取社長重役等は精神的の働きに對する休養比較的多きも、其部下たるものは休養時間甚だ少く、殊に電信電話等の夜間勤務を要する者に於て最も甚しとす。

神經質なる者は神經病或は精神病に移り易き傾向を有するものなれば、之れに對する豫防としては即ち神經系は障害あることを避け、且つ一方には神經系の外界に對する抵抗力を高めん爲め、適當なる方法を撰ぶべし。即ち一般の衛生法、完全なる教育、最も適當したる職業の撰擇等、又小兒期に於て殊に授乳時に當り若しも其母が神經質なるか、或は貧血或は腦の虚弱等の場合には、母乳を全廢して適當なる乳母を以て之れに代ふべし、少なくとも九ヶ月間は此乳母に由て哺育せざるべからず。其他小兒には成るべく温暖なる室を避け、入浴も亦低温度を習慣とせしむべし、而して最も注意すべきは齒牙發生期にして、此際は所有精神的刺戟を避けざるべからず。

小兒期に於て既に神經系の過敏なるものには、成るべく新鮮なる空氣中に生活せしむることを要す、例令ば田舍海邊等なり五官の刺戟烈しき日光、長き旅行等は之を避けざるべからず。稍々成長したる小兒の食物としては成るべく滋養品を撰び、多量の牛乳の外一定の混合食物を與ふべし、然しながら茶珈琲殊にアルコールは一滴たりとも有害とす。神經質なる小兒は睡眠少なく、殊に熟睡すること難く、睡眠中往々魘くが如きことあり、斯の如き場合に於て小兒の獨房は宜しからず、尚ほ寢室は全く暗黑ならざるやう注意すべし、又斯の如き場合と雖も、萬巳むを得ざる外睡眠藥を與ふるが如きは甚だ不可なり、多くは此際睡眠前に微温浴を行ひ、寒冷なる寢室殊に空氣の流通宜しき室を撰ぶ時は安靜なる睡眠をなし得るものなり。

小兒が食氣の不振、著しき蒼白、甚しき不眠等ある時は、適當なる醫士に就て治療を乞ふべし、斯る小兒が大人に移らんとする時即ち女子の開花期に於ては、又母なるものは最も寒心せざるべからず、此際生殖器の發育と同時に種々なる神經性疾患を誘起するものとす、斯る小兒は生殖器の發育比較的早く且つ强盛にして終には生殖的の不完全を來し甚しきは生殖作用不能となる、故に斯る小兒に對しては最も充分なる營養を與へ、且つ攝生法として間食を避け其の他座食的の生活、小說を讀むこと、歌舞の稽古等を全然排斥せざるべからず、之れに反し斯る小兒は成るべく身體的運動を與へ且つ田舍の住居、入浴の多きこと、身體の冷水摩擦等を勵行し、斯る注意は兩親及教育家の最も重大なる責任にして又平素出入する醫士と一部之れが責を負ふべきものとす。

最も行ひ易きが如くにして最も行ひ難く、而かも甚だ必要なる注目點は、若しも兩親が神經質なるか或は神經症例令ば神經衰弱症ヒステリー症ヒポコンデリー症等なる時は、斯る兩親より其の小兒を引離して別居せしむること是れなり。然れども斯る小兒を單に寄宿舍に入るゝが如きは宜しからず、適當なる田舍の居住者にして好んで小兒を愛育する處を撰ばざるべからず。如何となれば斯る小兒の教育には教育者其のものが正しからざるべからず、且つ餘り過敏ならずして出來得る限り小兒を放逸し以て從順なる性質と耐忍力とに富むべきやう務めざるべからず、殊に小兒の異常に怜悧なる者又は異常に遲鈍なる者に對しては、之れが教育の任に當れる者常に大なる耐忍力を持たざるべからず、如何となれば、前者は中途精神發育の頓挫を來す虞あり、後者は遲鈍なる如きも大なる耐忍力を以て教育するときは後世最も畏るべき人物を養成し得ることこれあるなり。

殊に注意すべきは數多の小兒を教育する際、愛情の不公平なり、是れ最も兩親の愼まざるべからざる所にして、之が爲め小兒をして復た挽回すべからざる神經病を起さしむることあり。又虚弱且つ神經質なる小兒は精神的教育即ち學校教育を延期せざるべからず、已に上に述べたる如く、神經質なるものは其の職業の撰擇に最も注意せざるべからず、即ち斯る者は可成的精神的作業を避け、尚ほ屋内の執務を不適當とす又斯る者には早期の結婚を愼むべし、殊に二十歳以内に於ては必ず避くべきものとす。（完）

買物をして利益を得る法

一記者

買物をして利益を得る法！はて、何でしやう。此の不可思議の方法は今度我發行所から發兌さるゝ『愛國叢書』の第一篇『女德論叢』に出て居ります。『女德論叢』は一部實價二十六錢、郵税金四錢都合金三十錢です。發刊は六月上旬。但し五月二十日までに前金で右『女德論叢』の代金三十錢を拂込まるゝ方々に限り、此の不可思議な懸賞に應じ三十錢の書物を買つて五十錢の『奥村女史詳傳』若しくは『主婦の職分』等を、『女德論叢』と共に無代で得られる特權があるので御座います。

買物をして利益を得やうと思はるゝ方々は、五月二十日までに、前金三十錢をお送り下さい。

次號には

おなじみの人形町おばなや

特許染御ゆかたの

賣出し廣告場所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛国心

伊太利　フオガザロ原著

第一章（二）

「おゝ、濱よ」

と、今しも姿を現せる彼女は金絲雀色の手套穿めし雙手を打ち敲きつゝ、茫然と岸に佇み渡船者を打ち見遣りつゝ叫ぶのであつた。「此樣な狀態で、眞實に湖面に乘り出せるのでしやうか不知？」

彼女の所夫は今一層權柄な態度を示しその顏面には、一層苦々しげな面色を現した。可憐なる婦人は沈默て艀の方へと辷り降り、激しく打ち震へながら、その內へと助け入れられたのである。

「まあ、此の恐しい光景は！」と彼女は叫んだ。

渡船者は打ち笑みつゝ頭を振つた。

「帆を持つて來てあるかね。」と巴索人は叫んだ。

「自宅には御坐いますがね」と濱は應へた。「行つて持つて參りましやうか？。が私が居なくなつたら御夫人がお困りでしやうし夫れに、雨は最早降つて來ますによ！」

「好いから、行つて持つて來い」と巴索人は云つた。

夫人は聾であるから、二人の間に交された會話を全然聞き取ることが出來なかつたので、濱の馳せ去るのを見て打ち驚かされつゝ、彼は何處へ行くのかと其の良人に尋ねたのである。

「帆を！」と巴索人は叫んだ。で、彼女は稍や屈み勝ちに坐を占め、口を大く打ち開き、尠くとも良人の聲のみは聞き漏さじと焦心に焦心るかのやうに見られたのであつた。

「帆を！」と、巴索人は其の雙手を口に當てがひながら、一層聲高に再び叫んだ。彼女は今や漸と解つたげの樣子に見えた。

彼女は恐怖を爲して打ち震へつゝ、指もて空中に疑問の象形を描いたのである。巴索人も空中に曲線を畫いて、それに應へ、その上、これに呼氣を吹き込んで見せ頓て靜かに叩頭いて見せた。恐しさに拘攣たる彼の妻は艀より去らんと、身悶へしつゝ、

「上陸せて下さい！」と、苦しげに聲振り立てた。「上陸せて下さい！私、歩きますから。」

良人は腕もて彼女を押へ、燃るが如き雙眼て彼女を見据えつゝ、彼女を坐に引き戻したのであつた。

左右して居る間に渡船者は櫓を携へて戻つて來た。憐れむべき女性は、身悶へつゝ、吐息したのてある。彼女は雙眼に涙を浮かめ、如何にも絶望したらしく、岸邊の方を仰ぎ見た。併し一言も發せぬのてある。櫓は立てられた。帆の二端は結ばれ、艀は今しも出發たんとした。その時、玄關から叫び出てた聲があつた。

「今戸郎留足下」

聲と諸共、便々たる腹の、大形の黒の麥藁帽子を戴き、口に葉卷を銜へた、手に蝙蝠傘を持つた圓拔に大きな赤顏の僧侶が歩み出てた。

「やあ、苦良殿！」と、巴索人は叫んだ。「出來し居つたな。卿も晩餐に招きを受け申したか。卿へ吾等と倶禮索愚野に赴かるゝかの？」

「萬一拙者をもお伴れ下さるゝとも」と、艀の方へ下り行きつゝ布里亞の副牧師は應へたのてある。「よしや、拙者をお伴れ下さるとの仰せ出てゝも決して參ることは御坐いませぬ。のみならず、馬留母夫人も、此處にお在せらるゝに。」

斯く云へる苦良殿の大やかなる顏面には此上なき優しさを帶び、その太き聲には限りなき麗はしさを帶びたのであつた

母子

小野小峡

去年の夏である。自分は小日向臺町の素人屋に二箇月間許り下宿してゐたことがある。

丁度、其の裏が梅村と云ふ、庭の廣い、植木の澤山ある構への可い家があつた。

主人と云ふのは六十近い、身體のヒヨロッとした、顎髯の白い、氣の好さゝうな人て、よく庭の中の掃除をしてゐた。夫人と云ふのは五十年配の恰幅の可い丈夫さうな人て、聲の高い割に氣質は至つて好さゝうな人だつた。此他に男の子が二人と、下女が一人、それから三十位の顏の美い縹緻の娘と、それが緣先きから伴れ戻つた八ッ許りの女の子とがあつた。

女の子は靜子と云つて、何でも自分が其處に引き移つて二週間許りすると、漸く次近づきになつて、日曜の晝や、土曜の晩などは「兄ちやん〳〵」と云つて、チヨイ〳〵遊びに來るやうになつた。

何時も小さな左手の指を脣て咬へながら、遠慮するやうな足附て、徐ッと自分の部屋へ這入るのが癖て、顏を見ると懷しさうに突ッ立つたまゝ首を下げる。

「靜子さん！、遠慮せずに此方へ被入い、誰も恐い人は居ませんよ！」

「だつて、妾いね！、兄ちやんのお邪魔になるからつて……」

無邪氣な口吻て言つて、モヂ〳〵して居る。

「お邪魔になど、なりやしませんよ」

「だつてね、おつ母ちやんが然ういつたのよ、兄ちやんのお忙しい時に往つちや惡いつて！」。遂ひ自分は可笑しくなつて、

「ぢや、僕が閑だから、用事が無いんだから可いてせう」

「さう！、兄ちやんよくつて！」

念を押しながら自分の傍へ來て、溫和しく坐る。

それから自分が少年雜誌や、葉書帖や、種々の繪などを見せてやり、お伽噺などして遣ると靜子さんは喜んて、一時間も二時間も遊んてゆく時がある。

顏はフックラシて、瞳はパッと鈴を破つたやうに可愛い、黑い短い髮をお下げにして、赤いリボンを飾つたところは畫に描いたやうて、何とも云はれぬ程可愛いが、熟く視ると何處か斯う顏の中に、細い淋しい影が刻み附けられてあるやうに思はれた。

「それも父親がないからだらう！」斯う思ふと、自分は可憐い感じがして、コッソリ涙暈んだこともある。

一體、靜子さんのおつ母さんと云ふのは非常な美人て、一寸見たところでは未だ漸う二十六七にしか見えない。どうしてなりと、靜子さん一人を大きくするのが役目だと云つて、顏も作らず、着物も飾らず、今幼稚園の教師をしてゐる。偶に自分の顏を見ると、

「度々靜子が上つて、失禮のこと許り致しますてせう！」丁寧に禮を言つて、その話の序に「私は、最うこれといつて樂しみも、望みもない身體てすけれど、唯彼女丈けをどうか大きくしたいと思ひまして！」濕んだ聲て恁那事を話されたこともある。

九月初旬、今の處へ移つてから、時々靜子さんのことも思ひ出さぬことはないが、別に用事はなし、大した昵近きてもなかつたところから、其の儘に過ぎて、最う半年以上にもなつた今日、突然梅村の主人は自分の處へやつて來た。

「つかぬことを伺ふやうてすが、貴方は確か群馬縣だといひましたなア！」

暫くしてから主人はヒヨッと首を上げて、思ひ出したやうにいふ。

「ヘア然うてすよ！、それて何か？」

「おや、あの何とか云つた！、然うだ前に衆議院議員をしたことのある近藤森兵衛と云ふを知つて居りますか！」。自分は可笑なことだと思つたが、兎に角知つてゐる丈けのことを話すと、主人は呑み込んだやうに、悠乎首頷いて、

「ハヽアー、然うてすか、て財産の處はどれ位ありませうか。」「然うてすね。財産などの委しいことは知りませんが、まあ大した方ぢやないてせう！」

「ハヽアー！」と又首頷いて、家の格はどんなところか、お分りになりますまいか」

「さあ！」と、自分が答に窮して居るのを見て、主人は當惑したやうな顏附て、

「實は！其の」聲をひそめて、

「靜子を欲しいと云ふ話があつて！」

自分は破顏した。

「靜子さんを！、ぢや靜子さんのおつ母さんは、どうかなされたんてすか？」急しく問ひかゝると、主人は寂しさうに笑つて、「ハヽアー、彼女も女のことてすからなアー」と言ひ澁つて、聲を顫はした。

（おはり）

△醫術界▽　文明的手術の隨一として江湖に迎へられたる隆鼻術の効果に就ては、今更らしく喋々を要せざるも、今川小路なる和田耳鼻咽喉科醫院にては、手術料も低廉なれば、依賴者も仲々多き由。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

紀行

伊香保の一夜

御蔭廼松

芝中御蔭の松――由緒ありげな建物――車夫の說明――一山寂として一鳥啼かず――熊谷場の春――越後街道澁川町――一歩に一景――宛然の蜃氣樓――聚遠館――海拔二千八百尺

芝中のまつのやとりに千代かけて
殘るは君が御蔭なりけり
皇太后宮太夫　萬里小路博房

澁川町から一歩、一歩山路を上りつゝ、輕車を駛らすること約一里にして、平坦なる一區域に達する、此處から再び山路を上り詰ること約一里にして、伊香保溫泉には達するのである。

此の山中平坦の區域は眞の深山路であつて、唯つた一軒の水茶屋が、物淋しげに路傍に設けられてある。その水茶屋に並んで、稍や新しき建物の、疊數約十疊一室ばかりなのがある。素粗な建物ながら、何とはなしに威嚴を存し、粗略に見過し難げに見ゆる。

試に濡れ椽越し、立て籠められた障子を一枚引き啓いて見ると、疊こそ古びたれ、飾り氣微塵も無き床の間に、恭しく掛けてあるのは緋の袴女官の立姿。いかさま之れは由緒ありげな……と首打ち傾けて居る眼の前に、恭しく掲げられたる古びた木札には、東宮殿下、常宮、有栖川宮殿下、北白川宮、東伏見宮なぞと莊重に書れて有る。

『はてな!』と、首打ち傾げて居る背後から

『檀那! 伊香保は初めてゞ在つしやいますか。』

と、車夫の一人が呼びかけた。

『お初めてゞは御存知在つしやいますまいが……。檀那、御覽じませ、彼處の松を。』

車夫の指す方を見遣ると、これあるかな、長松一樹蒼穹に聳え、樹下に一基の石碑がある。

『彼松は御蔭の松と申しまして、明治十二年、皇太后陛下、伊香保行啓の砌、彼の松蔭に御憩みにならしやつたので御坐いまして、彼の松の下の石碑に萬里小路樣の御歌が刻んで御坐います。』

と、車夫は切りに說明する。

扨てはと、導かるゝまゝ松の木蔭に立ち寄ると、「芝中の松のやどりに千代かけて、殘るは君が御蔭なりけり」と刻まれてある。あな、かしこ、今は亡き英照皇后の立たせ給ひし同じ木の下に、今し假の旅路にして、君が殘る御蔭を忍ばんとは。……暫時懷古の情に堪えなかつたことであつた。

車夫は更に說明を續ける。

『御覽じませ、彼處の崖際の亭を。あの通りお粗末では御坐いますが、彼處の亭と、向ふの離家とは皇太后陛下行啓の砌り新たに作へたもので、其以後、何の宮樣方も他に御休憩所が無いので、彼處と此處でお休みになりましたので。唯々寔に恐れ多いことで御坐いまする。』

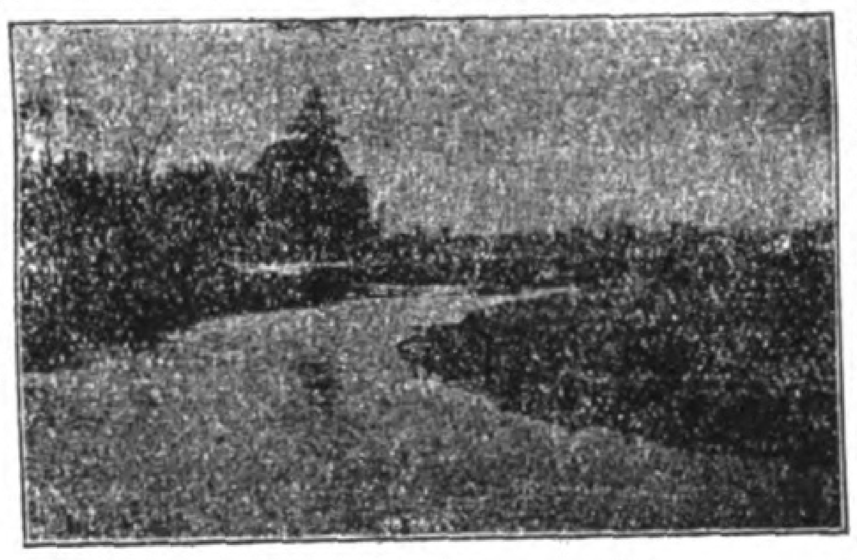
車夫の說明に、胸の疑團忽ち解けた予は、向ほも暫時松の木蔭に佇みて、懷古の情に耽つたのであつた。

其處等梅ちらほらと咲ける一山寂として一鳥啼かず、行人の跡殆んど途絶えて居る。今日四月の第一日、時は午後の三時半――帝都では、今か櫻と滿都の人の浮れ舞ふべき此の頃を、榛名の山麓伊香保に近き山路の春は未だ淺くして、櫻の蕾は容易に綻ぶべしとも見えぬのである。而も雲の往來しげくして、山雨今や來らんとするかと思はれる。雪ならば幾度か打ち拂ふべき征衣の袖も、雨にはいかで……。と、思ひ直して再び俥に上る。車夫は忽ち轅を上げる。後推しも忽ち見構へた。俥はするするゝと駛せ出て、再び、一歩一歩山路を上り行く。

伊香保市遠景

山路いよいよ急にして、車夫の額には苦力の汗にじみ出るのであつた。彼も人の子、はて、氣の毒なと拭へども、予は客の、雇主の身の上とは思へども、他に所在も、唯だ左顧右眄、山路の景を賞しつゝ、唯管瞑想に沈むのみ。

『旅行案內』示す處に從ひて、忙中僅か一日の閑を貪りて、今朝上野より發車、三時間半の汽車にして、或ひは熊谷堤の花未だ早きを恨み思ひつ、或ひは利根の川瀨を驚かす鐵路の轟きに午睡の夢を破られつゝ前橋に着し、此處にて午餐したため、澁川行の鐵道馬車約二時間半の行程の裡、萬葉の歌集に詠はれし利根の流れ、比利根河の歌の寔に理由あるを思ひつつ、展望萬里の關東平原涯も無きに心偉大の威に打たれつゝ、右手は血に飽く赤城山、扨ては妙義山、左手は弓の榛名山、その間に遠く自然の白粉を施せる淺間ケ嶽を望みつゝ、風流の想胸に充ち溢れ澁川に着いたのは、午後の二時。



桃木川

澁川町は越後街道の要衝に當り、東北には赤城、西南には榛名の連峯を帶び、利根川は北から、吾妻川は西から流れ來りて町の北方に相會して居る。宛然、これ高原の一市街。

この市街から人車を傭し、一歩に一景に一興ある山路を經て、前記芝中に達し、更に今や伊香保に向つて人車を駛せて居るのである。

名もやさしき小町橋と呼ばれた溪橋を渡り、反顧すれば、自然の大景、飽くなき風光、背後に展開されて居る。

伊香保大瀧の景

猶ほ進むこと約三十町にして背後の展望いよいよ大に、利根の流れは宛然銀蛇の如く、山間を折れ曲りて流れて居るのであつた。折しも小雨は降り出でた。遠雷の如き響きも聞えた。これは不入瀧つ瀨であらう。この瀧の他、伊香保には、市街を距る三十町許りに辨天の瀧と云ふのもある。この瀧の下流十町餘にして大瀧と云ふのもある。が、僅か百忙場裡一日の閑を偸んだ今回の旅中には、到底一見するだに難いことであらう。

路に添ふて俥は稍や左し、右には今迄とは全く脈を異にした大谷を開き、下には溪流の遠く鳴る音、笛の如くなるが頓に聞えた。これこそ伊香保の谷であつて、伊香保の町の高樓大厦層々相列りて、宛然蜃氣樓の如く眼の前に現れたのであつた。遙に展望を凝すと、この高樓大厦の背方には榛名の連峰巍然として連つて居るのである。仙境! 好仙境!!

層々坂路を上り了りて、俥は遂に旅館聚遠館（小暮武太夫）に着いたのであつた。女中に導かれて、直ちに二階に上る。春未だ淺き此の頃とて、浴客いとゞ稀れに、さしもに廣き滿樓寂として聲なく、空しく湯壺に落ち來る湯瀧の響きを聞くのみであつた。

あはれ、寂寞たる春の一夜を、人遠く水清き伊香保の里にして、齷齪として殆ど閑日月なき頃日の疲勞を休ましむる一夜と爲すを得ば、予が願望は足りるのである。九折岩の奇勝や、湖畔亭の風光や伊香保沼の展望なぞを恣に貪らんとするのは、予が今回の目的でなく、願望でない。要は一夜の安息を得れば可なりてあるのだ。

あはれ、帝都を距ること僅か三十五里前橋市の西北六里五町、高崎市の北七里十五町なる上野は榛名靈山の中、二ッ嶽の中腹にして、海拔二千八百尺の、南に山を負ひ、西に溪を臨み、東北開けて、遙かに蒼々たる田野を俯觀する此の高地伊香保にして、今宵しも圖らず平素の疲勞を休め得やうとは實に望外の幸福であつた。あはれ、一夜の安息、いかに予が心をか活動せしめたる!!

――四十一年四月一日の夜――

安心の出來る格安物

夏ショール	一圓十錢ゟ三圓四十錢
小兒夏帽子	廿五錢ゟ二圓八十五錢
男物夏帽子	五十錢ゟ十四五圓
ホワイトシャツ	一圓十錢ゟ二圓卅錢
縞シャツ	一圓九十錢ゟ二圓五十錢
手釦	二十錢ゟ五圓
ネキタイ	二十錢ゟ一圓七十錢
婦人用手袋	卅五錢ゟ一圓卅錢
ゴムスポンヂ	四十五錢ゟ一圓五十錢

東京神田小川町通り裏神保町一
中久商店
電話本局三一五三

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新體詩

編輯局同人選評

一等

解剖　靜岡　安永みち子

夢あはく草に眠りて
學生の手にとらはれつ
暖き春の日さして
蘇る水漕の内
大兵の身を横たへて
見まわすや妻は何處と
あたり皆純白の幕
草の香はあらず異なる
奇しき香のするよとのみに
他は知らずモルヒネの醉
罪もなく眠る體は
うつされぬ解剖の皿
四の足針にさゝれて

評。新しい處へ目をつけられたのは結構である。解剖の主が蛙である事は説明する迄も無い。

二等

零落　東京　加藤ふみ子

雨つゞく山の手の町
貸家札斜めに張れる
軒の下しばしのやどり
俛首れて佇む母子
烟の色は灰に黄ばみて
地獄繪の亡者に似たり
街燈のうすき火影に
ぬかりたる大路をながめ
餓き目にうれひも見えず。

春

胡蝶ひら〳〵雲雀が揚る
麥は三寸、菜の花つゞき
手綱うしろに駒曳く親爺
くわへ煙管に春風ふけば
土手の柳にもつれてとけて
末はかすみの筑波山

評。零落は調想共に嶄新とは云へないけれども、歌ひざまが一寸氣がきいて居る。春はくはへ烟管の煙と筑波山との配合が面白い。

秀逸

美し人　若代　長谷川よしの

露白う汀をつゝむ　初夏の池のあけぼの
ほつれ髪風になぶらせ　うすものの袂くはへて
花菖蒲きゝるとあり立つ　美し人君をゆかしみ
眞玉なす優頬かすめて　つばくらめつと飛去りぬ

詞章は豐富であるから、極めて艶麗に見えるけれど、惜しい哉、内容が貧弱である。

胸の花　因幡　橋浦美喜子

胸に咲く一房の花　よろこびの綾とる時は
紅にはた青色に　さと薫りほのにあり立つ
人こひて血汐みながら　花と咲くわかき亂れよ。

彼舟　廣島　金原直子

柳に見えぬ彼し場の　親父は今年六十二
自慢の唄を歌ひつゝ　花に醉ひたる春人が
袖にも薫る匂ひ香を　小舟に乘せて歸り來る

筆致流麗

落花　岡山　西村長子

雨さそふらし風なぎて　散ちるなり庭もせに
門にたゝずむたをやめは　紅の雲霧を押へつゝ
そよ吹く風を頬にうけて　契りし人を待つらしき。

佳作といふべし。

短文

編輯局同人選評

一等

美音　香川　瀬高やす子

目の醒める様な緋桃の花蔭に、村で名高い隣の美ちやん、姉様被りにして眞白な手拭に、一ひら二ひら花の散て居るのも心付かず、一心に張物をして……思ひ出しては照る日も曇る……すき透るやうな美い聲。菜の花に遊び狂ふて居た胡蝶までが、吸ひ寄せらるゝやうに集つて來る。

評。あでやかな文

三等

春子ちやん　因幡　橋浦美喜子

花園の手入をして居ますと、五六間先の好く咲て居る椿から、鶯がホーホケキヨと、さも羞しさうに唄ひ出しました。三歳に成つた春ちやんは、いぢくつて居た菫のたばを置て、母樣何。鶯といふ鳥ですよ。鶯といふ笛なの。と愛くるしい眼で私を見上るのです。私は思はず土の付て居る手を忘れて抱き上げました。

評。天眞爛漫。

同上　新潟　宮崎四屋德子

空はうらゝかに晴れて、暖かにさし入る小春の日影をも、窓の障子にさへぎりて、すきまもる風もいとはしげに、眉うちひそむるその顏色、血のけもうせてあやしう黄ばみ、力なげなる白き手を手あぶりにかざして、端座せるその膝板よりもうすし。あはれかくも病みおとろへしは誰が子の母ぞ。庭前に笑ひ興じつゝ、らけつと固く握れる手をとゞめ、はれ〳〵しき聲に、母さん一寸窓を明けてごらんなさいよ、ぼーるが木の枝にとまつて……：答ふるに先立ちて窓をもるゝはしはぶきの聲なり。

評。構想は少しく時代遲れなれど、措辭なきを以て選に入る。

秀逸

靜岡　安永みち子

文机の上一輪の白薔薇あり、友の御手になりしもの。徒然のあまり美しき花よと顔をよせて、香を聞きては訝るなりき。嬉しくてか羞らひてか、笑みまさるこの花。人に遣られし身の神のよそほひと見らるゝは。

評。花の如き友の君の御手になりし花なればこそ、神のよそほひとも見らるゝは。

椿か椿か　廣島　なを子

兒くより待ちし椿か椿か、取り出て母君に訊れを何と判じ給ふと言へば「おゝ愛らしの稚兒よ、それは女の子にてあらむ」とのたまふ。されど何處やらに見ゆる凛たるけはひよ、我は正しく男の兒と見し。

評。柳は緑、花は紅と昔から相場はきまつて居ますから椿か椿か、直ぐに判る答てすが、さて意外にまがふ杜若と云ふ事もありますから、よく御考へなさいませ。

蝶か花か　三重　中島千萬子

目元凉しき六つ七つの男の子、今ひとり同じやうな女の兒と蝶を追ひつゝ來るに、小蝶のねむれるを目ざとくみつけ、とらへんとて寄る折、靜かにかなたより母上のよび給ふ。答ふる聲に小蝶はねむりをやぶりて、逃げ去りぬ。二人はうらめしげに之を見送る。

評。可憐なる寫生文。

朝夕の化粧は如何になす可き乎

皮膚を美るはしくする法ありや
白粉のツキを良くする法ありや
ニキビとアレを防ぐ法ありや

化粧の人生に必要なる事は今更申上げる迄もありません即ち文明國ほど此の化粧法の研究は盡くされて居ります我が國でも近來化粧方法に就て盛んに研究せらるゝやうになりましたのは誠に喜ぶ可き現象では御座いますが夫の研究方法が徒らに白粉の批判に止まりて未だ眞正の化粧が研究され居らんのは實に遺憾の次第であります

化粧をするに白粉は勿論必要の品では御座いますが實際のところを申上ると白粉は一種の上塗たるに過ぎません奇麗に艶やかに化粧を遊ばそうと思召すなら是非共素顔を美しうするの必要がありますが夫れでないと折角の化粧が斑になつたり直ぐ剥落たりするやうな不細工の結果を生じます然らば素顔は如何にせば美つくしうなるかと云ふに夫は極く譯もない事で當時化粧水として評判最も高きローヤル水を御使用になるに限ります

ローヤル水は皮膚に最も有益なる數種の藥品を調合し之に芳香を加味してありますから之を平素御使用になれば白粉の剥げる憂は更になく

第壹　色を白くし
第貳　白粉の毒を豫防す
第參　ニキビとアレ等に効あり
第四　皮膚に營養を與ふ

の四大特効があります從つてローヤル水を平素御用ひなれば決して白粉の毒なるの爲に素顔の醜くなる憂はありませんのみならず美麗なる容色を一層美麗にして何時までも艶やかなる膚を保有ことが出來ます定價大五十錢中卅五錢小廿錢郵送料十二錢郵劵代用の御注文は一割增發賣元は東京銀座壹丁目ローヤル化粧料發賣元佐々木商店で販賣店は全國到る處の洋品店、化粧品、小間物賣藥店にあります

●美形隆鼻術
本術は一回の無痛注射に依て低き鼻を隆くし見事美形となし終身凹むことなく身體に害なき安全確實の手術なるを保證す
神田今川小路二丁目十一（九段坂下御獄敎會裏通）施術午後二時後。
大學醫院辭職開業　和田耳鼻咽喉醫院

婦人科產科　榊病院
院長　醫學博士　榊順次郎　婦人科產科每日午前診察
副　醫學士　久保德太郎　婦人科外科外國留學中
副　醫學士　田代謹二　婦人生殖器及泌尿器病
●施診火木土自午後一時至二時　科一般火木土午後診察
麹町區三番町三三（電話番町三九五）

大俵炭
大德用
山出シノ俵叺入堅炭、土釜、切炭、壹俵ハ拾貫目内外入
目方ウリ
市內ハ無賃配達
戸塚商店
（電話本局三二〇八）
神田三崎川岸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

佐々木信綱大人選

—春季雜詠—

天　東京　飯塚清子

すみだ川つゝみの花につゝくらむつくばの山の峯の白雲

評。着想奇拔にして、こたびの詠草の中に最もすぐれたりかの「白髪三千丈愁によつて」といへる如く、詩歌にはかゝる誇張のいひざまもおもしろし

地　伊勢　日野千鶴子

なすわざはみなしはてゝ花蔭のそゞろあるきそたのしかりける

評。女らしくやさしき歌

人　岩代　長谷川吉野子

春の神は女神にますを綠柳誰に見せんと眉つくるらん

評。着想清新

秀逸

幼子がすさびにまきしわかそのゝすゝなの花に蝶のまふなる　岡山　清水梯子

黎明のかけほの淡き佛壇に椿の花のほろりと落ちぬ　廣島　金原なを子

たかすてし草かこならんくちはてゝ一本すみれ花咲きにけり　岡山　西村長子

花の香にゑひてれふれる蝶の羽にさはらぬほどの春風そふく　山口　末田貞節子

朝露にぬれたる庭のさくら花ひとえたなりてかめにさゝまし　京橋　飯塚清子

甲

ちる花を夜も見よとや月かけのいふせき窓にさえ渡りつゝ　靜岡　安永みち子

詩人のなめけのわさも今日のみは花のなさけにゆるされにけり　東京　飯塚きよ子

蝶を追ひ蝶におはれて少女等のすみれつむ野にわれも出にけり　山口　末田竹子

なかむれはこめしあさ霧海に似て島とも見ゆる春の山山　廣島　金原直子

心あるいほのぬしかなすゝなさく野邊のかきりを我庭にして　三重　中島千萬子

そゝろにも行末思ふ雨の夜に獨り泣くへき事もあるかな　東京　松田重子

たそかれのそゝろありきに吹く風の香にさそはれて來る梅のもと　丹後　安久春子

乙

時ならぬ雪かと仰けは櫻花あたら散りしく山のしたみち　同上　同人

玉椿あつめてつなく花輪かけて織らなむ文のにしきを　靜岡　安永みち子

とふ人もあらしの峯の池の面に花の小波たちさわくなり　同上　同人

丸窓や春の光りはのとかにてなり〳〵うつすちる花のかけ　同上　同人

はなの袖夜半のあらしにほころひて今朝はなちゆく永久のねむりに　同上　同人

鶯のこゑもたくみとなりにけり春のなかはの桃はひらきて　丹後　安久春子

何氣なく庭にたゝすみふとみれはゑみて待の人待つらしき　同上　同人

業卒へてかへさを急ぐ學ひ子か母や待つらむ親ひことして　同上　同人

くれなゐとみどりの中を吹きわけてにほひなつかし春の山風　紀伊　中橋多麻子

いまの世に上見ぬ藤の花かつら少女心もかゝれとぞおもふ　同上　同人

はら〳〵と花ちる春の夕風にかすかにきこゆ里の守かれ　岡山　西村長子

ほたる火を千々にくだける連波に過去しのばるゝ勝原の棚　青森　竹林秋子

春けしきうつさんものと野に立ては書そへてよと雲雀とふなり　廣島　金原直子

雛菊

—アンデルセン—

あきら女史

下

どうかして雲雀を慰めて上げたいものだと雛菊は思つても花瓣の一片たつて動かすとも思ふやうにならないのです。それでも例の性質よりもずつと佳い香を花瓣から出しました、雲雀もそれを知つて居るものと見えまして饑渇のあまり青草の葉を裂き散しましたが花へ傷付けるやうな事はありませんでした。

まだ誰れ一人と日暮方となりました。まだ誰れ一人として、一滴の水さへこの憐れな鳥にやる者がありません、雲雀は翅を擴げ烈しく震はせてはピイ〳〵と力なく鳴く計り、小首を雛菊の方に傾けましたが胸は甲斐もなき渇望に破れて了いました。同様に雛菊も雲雀が甚にしくつて痛はしくつてもう前夜のやうに花瓣を疊んで安々と眠ることなんか出來ません、下を向いてうな垂れてしまひました。

朝になつてやつと兒童が來ました。雲雀の死んで居るのを見ますと大變に泣き悲しんで立派な花飾をして綺麗なお墓に葬りました、遺骸が華美な赤い箱の中に納められたのは國禮を以て嚴に營まれたからでした。

不幸な鳥よ、生きて囀つて居る間は忘られて籠の中で饑渇になやまされて居たのに、今死だと云つて泣き悲しまれて重々しい待遇をされるなんて、何といふ事なんだらう。

けれども青草の塵は雛菊を横へたまゝ路側の塵に投捨てられて仕舞ひました。此名もない雛菊、雲雀の事を何よりも思つてどうかして慰めやうと心をくだいた此雛菊に誰れ一人として思ひ及ぶものはありませんでした。

讀者欄

△編輯局北向きの窓の擦りて、洒落者の鶯が御往過と云ふ見えて、春が來ますと告げたのは、此間のやうですが、もう櫻も咲いてしまいました。今日は大層暖かいので、例の窓を開放して牛ケ淵の櫻を見つゝ、「遊びに行きたいな」と思ひながら、ボンヤリして居ると編輯長始め先生方は切りに勉强して居るので、あわてゝ讀者欄を編み始めた。事あれかしと眺めて居た頑白の春の風奴、やわいとも云はず、不意に口をつぼめてフッと吹いたので、讀者諸姉の葉書は散り々々に舞ひ飛んだ。いま〳〵しい風ではある（編輯小僧）△此度は結構なる贈物進に<ゑ>はがき御賞興下され有難く存候先は不取敢御禮まで如斯に御座候草々（水野淑子）△只今はまた第百四十九號新體詩賞撰の由にて、婦人の慰問使、美事なる繪葉書五葉加へて、國母陛下の御瑞夢までも御郵送下され有がたく頂戴いたし候以後またく〳〵御添削御願申上候先は一寸御禮かたく〳〵かしこ（安永みち子）△やう〳〵春暖の好時節と相成候處貴所ますく〳〵御壯健に赴かせられ候段奉賀候さて拙詩今回賞撰の榮を賜り候由にて、會長岩倉公爵の令夫人御染筆の扇面に繪はがき澤山御惠贈下され難有厚く御禮申上候なほ御申聞けの趣委細承知仕候此後ともいよ〳〵愛讀者の增加いたし候樣勸誘いたし候て御厚志の萬一にもむくひ奉らすべくと存候まづは右御禮まてかしこ（名取正代）△貴社御發行の愛國婦人號てより愛讀致し居候處今度一大革新と共に代價上げの樣見受られ申候世に多き婦女子の雜誌中安價にして有益なるは本誌の外に又あるまじと喜びつゝ愛讀致し居り候ひしに此の大發展を見、天地萬物の理を知るが如き智識を與ふる貴誌の事なれば今後も誓つて貴誌の後援たらんことを期し可申候（井上みゆき）△此度は思ひかけなく短文三等に當選致し喜び居り候處御美しき扇子ならびに御葉書賞品として御惠與下され難有御禮申上候先は不取敢御禮まてかしこ（阿部梅香）△昨日は賞本下され難有存じ奉候猶また落句には候へ共今後是出致し候先は御禮まで草々（鈴木春子）△今回拙詠の新體詩及俳句當選の由にて總裁殿下御染筆の御掛物と美事なる扇子諸姉の繪端書等かず〳〵御惠與下され厚く御禮申上候猶今後共一層勉勵致候御芳志にそむかざらん事を期し可申候かしこ（長谷川吉郎）△御忙しき中に每度御手數を煩はしまして誠に恐れ入ります。就ては記者樣短文の外長文は投稿は出來ないので御座りますか。もし出來ますならば投稿致し度ものですが如何でしよふ。御又此度は文苑の御募集はないのでしよふか、御尋れ致ます。何卒來月の紙上て御答を待上ますかしこ（桂木文子）△長文は御投稿なすつても差支御座いませんが、凡て掲載すると申上ることは出來ません。佳作ならば載せますが凡作は載せません。又文苑はいつでも募集して居ます（記者）△四月以後の貴紙代價上げの金額は會納せざれば懸賞圖案の募集は出來申さず候哉又有佳選肥募字體は何書にても無支無之候哉△仰の通りで御座います（係記者）△拙き文選にいり候さへ有難く存じ居候處賞品として、貴輪一層及なつかしき諸兄の方々のものし給ひつる繪葉をいたゝき、あつく御禮申上候猶この後もいよ〳〵勉强仕るべく候へば、よろしく御導き下され候樣御願ひ申上候かしこ（秋川美知野）△拙き和歌當選の榮を荷ひ誠に恐縮の至りに不堪候、就ては國母陛下の御瑞夢婦人の慰問使龍に雅友諸姉の美しき繪葉書等御賞與下され誠に難有嬉かに拜受仕り候御厚禮申上げ候、嬉しさを何にたとへん若草の萠え出てし野にかゝる春雨（藤野錠子）

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂

電話下谷　特九六五番　一二四四番

金糸　極天　專賣

但女學校用品一切

御小賣　明治堂

東京市神田區今川小路壹丁目壹番地

關谷勝平

女中入用　至急動物好き强健なる者

山羊乳　ハ人體營養ニ一番大切ナル蛋白脂肪共牛乳ノ二倍余含ミ常ニ飲用スル時ハ血色ヲ能クシ皮膚ヲ艶麗ニシ且美味無臭牛乳ヲ嫌フ人ニモ適ス

割引券

定價一合金拾錢　割引直段金七錢

有効期限四十壹年五月三十一日

荏原郡目黑村三田　小野寺山羊牧場

乳山羊　ハ清潔健康ナル動物ニシテ牛疫結核等病毒ノ恐ナシ其上當場ハ衛生上ノ諸設備ヲ獸醫學博士津野慶太郎君ノ監督ノ許ニ施設ス

女中望の者は小野寺山羊牧場へ申込あれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

俳句

―春季雜題―

内藤鳴雪選

天　雛鳥のわた毛なつかし春の風　紀伊　中島多爾子

地　春雨に羽根の重もたき蝶々哉　東京　芝　季茂

人　いさかひて雛をのゝしる弟哉　仝上　前原のぶ子

秀逸

京に來て花賣る聲も長閑なり　京都　渡邊豊子
桒の花に小雨降日の靜かさよ　岡山　四村長子
長閑さの遊に疊りて仕舞けり　仝上　仝上
燒し野の雉子の聲は親か子か　青森　竹林秋子
朧ろかな聲も途切れてはつ蛙　東京　松田紫泉
夏ちかき爾宜が垣根や白衣干　岩代　長谷川吉野子
伽羅焚いて人を待らん宵の春　東京　鶴岡とく子
うくひすや野茶屋に干し丶女衣　仝上　仝上
提灯の朧ろを走しるつゝみ哉　仝上　栗原花園
灯火の小窓にふけて梅しろし　仝上　仝上
春雨のあとたのもしき若菜野や　京都　渡邊とき子
音もなき月夜の雨や初かはつ　三重　鈴木春子
草刈りのかり殘したる菫かな　靜岡　安永みち子
ときの間に雞獲する雨の日や　仝上　仝上
子を負ふて汗ばむ背や桃の花　東京　加藤ふみ子
傘さゝて路急く人やはるの雨　仝上　仝上
朧夜のふけて又見るさくら哉　山口　末田竹子
初花や朝詣てする長命寺　東京　中山由子
手すさびに花挿居れば蝶の來る　岡山　清水梅子
思ふ事いはて止みけり散る櫻　紀伊　中橋多爾子
谷川に沿ひ來て廣き春野かな　京都　山本千代子
霧雨にぬれてなつかし夕櫻　東京　鈴木榮子
墓の雪はあとなしはるのあめ　北海道　小野寺千歳子
舞ひ上る蝶々のかげや庭の池　東京　彦坂たき子
梅咲て弘法泊めし草家かな　鹿兒島　藤野錠子

第八十一回 文苑募集

―〆切五月五日―
―發表五月廿日―

和歌　春季雜題　大口鯛二大人選評
俳句　春季雜題　内藤鳴雪大人選評
新體詩　題隨意　編輯局同人選評
短文（十行以内）題隨意　編輯局同人選評
地方的料理法　一口噺

御園白粉

畏き邊りの御料に召させ給ふ
完全無鉛高貴御化粧料　御園おしろい

ねり製　御園白粉
水製　御園白粉
こな製　御園白粉
洋風化粧クレーム　御園の蕾
高貴化粧水　御園とき水
御顏ふうちき白粉　御園なでしこ
濃化粧厚水　御園四季の花
高貴御水油　御園香油
高貴御香水　御園香精
高貴はみがき　御園齒磨

製造本舖　東京芝　胡蝶園（長）電話新橋七四七番
發賣元　東京日本橋區橋町四丁目　丸見屋商店（長）電話浪花四四八番　振替貯金六五三六番

◉御料御園白粉と御園各種化粧には詰替賣一切無之候
◉御料御園白粉の製造本舖　芝　胡蝶園は銀座の胡蝶園とは毫も關係無之候
◉銀座胡蝶園にて發賣する御國白粉は　御料御園白粉とは全く別物に御座候
御購求の際は篤と御注意奉希上候

相替らずスコット乳菓を嗜好致候拙者共はスコット乳菓の効驗の致す所と確認致候

肺炎に罹りたる後スコット乳菓を用て健全となりたる例證

愚息儀肺炎に罹り滿三ケ月間伏蓐罷在り萬一回復するも結局は肺結核となるべしとの事にて總身肉落ち骨顯れ見るも不憫の容体と相成申候然るに醫師の勸告に由りスコット乳菓を服用せしめ候處未だ一壜も飲み盡さゞるに食慾大に進み總ての經過良好となり現今にては却て罹病前の何れの時よりも健全にて右愚息の平癒を以て全くスコット乳菓が愚息に與へたる好果を視て

千九百六年三月十一日

シーフキルド、ドールセット街六拾三番地
ジョン、イー、プレーキー

右快復の理由

右ジャッキー、ブレーキー、が肺結核とならずして快復したるは全くスコット乳菓中に含有する優逸なるロフオテン大口魚肝油（最上等にして最高價なる肝油）が其肺臟を癒やし其全身に良好堅靭なる筋肉を造成せしむるの精力を有したるが爲めなり

他のありふれたる大口魚肝油乳菓は斯くスコット獨得の完全なる製法に由りて充分に消化し易くせられたる最も純良にして最も活力に富める肝油にて製せられたるものに非らざるが故に斯の如き偉功を奏する能はず

包裝の大口魚を負へる漁夫は前述の如き驚くべき快復が唯偶然のことに非らずして確實の事實なることを保證す

自慢の銘茶

自園特製の香味を試みられよ

（百六十匁壹斤）	
玉露	五圓
喜久祝	參圓
碧園	貳圓五十錢
明月	貳圓
松風露	壹圓五十錢
老の白	壹圓二十錢
大仙壽	
薄茶	（同上）
極昔	參圓
別儀昔	二圓三十錢
南昔	壹圓五十錢

折物之部（同上）	
初折	九十錢
折鷹	六十五錢
雁ケ音	五十五錢
煎茶	（同上）
祥雲	壹圓貳十錢
蓬來鶴	壹圓
正大福	八十錢
花配	七十錢
紫金	六十錢
南山	五十錢

（十匁ニ付）	
濃茶	五十錢
蓬萊昔	四十錢
初昔	參十五錢
後昔	

定價ハ袋詰直段ニ付鑵詰ナレバ左ノ鑵代ヲ要ス
壹斤入　金十錢
半斤入　金七錢
小半斤入　金五錢
其他何品に不拘廉價にて貴需に應じ可申候

◉壹斤壹圓以上の銘茶壹斤以上の御注文は送費弊軒負擔す引替小包は料金差額申受候但し滿韓臺灣は小包料の差違額申受候

◉御注文は代金引替小包又は振替口座へ御拂込み若しくは前金にて御注文被下度候

山城國宇治田原鄉之口
宇治茶製造元　雲祥軒　村田喜久次郎（振替貯金口座壹壹四壹貳番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

話の一種

ひつじ

(四)お庭にお砂糖が降る

俊ちやんはお幾つ？と聞くと乾度拇指を折つて、是れだけよ。と右の手を擴げる。俊ちやんは恰度數へ年の四つである。

或る雪の朝、起きぬけにお祖母様のお座敷に、お早うを言ひにゆかうと何心なく障子をあけると、思ひきや、ありしに變る一面の銀世界！

見るより俊ちやんは喜色滿面、其のまゝばた／＼驅け出して、母様のお室に入るや否や、可愛聲をはづませて、

母様、誰かがお庭に一杯、白砂糖をこぼしてあつてよ。あたし嬉しいわ！

＊　＊　＊

附言す、俊ちやんは生れてはじめて此雪といふものを見たのである。

(五)主人の高德

約十年程以前の事である。

横濱の某町から出火して、附近の人家百四十餘戸を焼き拂つた折の事とのみで日を記せぬ。

類焼の厄に罹つた人々のうちに富士屋といふ酒造家があつた。可なりの身代で、酒倉も三棟からあつたが、累年の不出來に引替へ、其の年は珍らしい上出來と、主人も喜べは雇人もホク／＼。是れて數年間の損失も償ひ得てあまりありと喜こんだ甲斐もなく、思ひがけなく此の近火である。

擂鐘の音に眼がさめて、スワヤ大事と主人を始め店員一同が蹴起した時には業に遲し、火は早くも南隣の雜穀倉を嘗め盡して第一、第二の酒倉に移り、眞紅の焔はペロリ／＼と三方の窓から舌を出して居る。

と、見て主人の瞳は輝いた。よし一切の家財は放擲して可なり。わが家の運命は今やかゝつて第三の酒倉にある。者共續けと云ふより早く眞驀に驅出した主人に續いて、此の人の爲めには火水の中へもと、擦ねてから心に誓つて居る恩顧の手代十幾人は、雨と降る火の粉のなかを無二無三に突貫して、要所々々へ應急の眼張嚴重に、愈々是れて心配なしといふ所で、主人を中に一同は、勝鬨あげて風上へと引揚げた。

皆の御蔭で第三の酒倉だけは取とめた。さて一同には怪我した者でもありはせぬかと、かゝる折にも主人は慈悲は變らぬ。幸ひに怪我はなし、そこで人數だが、留は居るか、善は此處にか、秀は、富は、吉はと數へて、ヤア新參の辰藏が見えぬ。

辰はどうした？と主人の聲容はふるへる。エッ？といつて顏見合せたが誰一人答へがない。と、末座からのさばり出た秀といふのが、確か第三の酒倉に驅付けた時には辰さんが先鋒であつたと言ふ。成程さう言はれゝば辰が誰より先きにあの酒倉の中に飛込んだのを確かに見ましたと番頭の忠助が眉をひそめる。私も見た、俺もと、衆口は期せずして符節を合する如しである。

主人の顏色は變つた。事あらせてはと思はず後から抱き締めた一番頭の手を振り挽いて、酒倉の扉をあけるんだ！といふなり主人は再び火の粉の中をくゞつて眞驀に突進した。

驚いたのは一番頭ばかりではない。折角生命懸けて食ひとめた酒倉を、辰一人の爲めに犧牲にされて溜るかいと、口にこそ出さね心は同じ番頭の誰れ彼れは、劣らじと後追ひかけて主人の双の袂を要した。

旦那！辰一人のために貴殿は――貴殿は――。

とまでは言つたが、番頭の聲は煙に途ぎれた。何？と振り顧つた主人の瞳には冒すべからざる決心の色が現はれて居たのである。

人間一人の生命と、酒倉一つと交換が出來るかを考へて見ろ！

言ふより早く渾身の力をこめ、火のやうに焼けて居る懸錠目がけて打ち下す棍棒の一撃に、流石堅固の錠前もがらりと落ちて、鐵張りの扉が左右に勢よく開けた途端に、まるで生きた人とも思はれぬまでに色蒼白めた辰はよろ／＼とよろけ乍ら倒れかゝる樣に主人の双腕に身を投げたのである。

＊　＊　＊

其の後の事は言ふまでもあるまい。主人は全身數ヶ所に火傷を負うて人事不省に陷り、直ちに附近の病院に擔ぎ込まれたが、治療宜しきを得て、約三時間の後息を吹きかへしたが、覺醒後第一に尋ねたのは、家の事でもなければ酒倉の事でもない、

辰はどうした、怪我はなかつたか？

との一語であつた。是れを聞いた番頭手代、さては醫員の誰れ彼れまで、思はず難有涙を流した。

主人は此の火事で酒庫の三つまで焼いて了つたが、併し其の代りに、雇人の爲めには自己の全財產をも犧牲にして厭はないといふ大精神を充分彼等に認識させる事が出來た。此主人の爲めには火水の中へも喜んで飛び込うと心に誓つたのは獨り辰ばかりではなかつた。

德孤ならず必ず隣あり。間もなく主人は市有力者の援助を得、前にも增して宏大なる營業場を新築し、今猶盛んに繁昌して居るといふ事てある。

狒々のチャン王

服部嘉香

ことしは申年ですからそれに因んで御親類筋の狒々のお話をしませう。例の通り昔々の大昔、と呼び出しを掛けるアフリカに在つたお伽話です。

チャン王は年老つた怜悧な狒々です、人間でも自分で偉いと思つてゐる者に本當に偉い人は無いものですが、チャン王はとても自惚れてゐる程怜悧でもありませんが、然し、兎に角或る森の一隅に割據して其處の王様として充分統御の力量を表はし得る點に大きな自信を懷いてゐます。それに長い／＼兩腕を以て、樹の枝から枝へ、又其の電光の如く飛び廻る事も上手ですし、又其の走る事と云つたら、韋駄天すらも容易には捕へかねる位迅いものです。

チャン王は又二本の脚で以て立つて歩きます、此點が他のあらゆる四ン這い動物と違つてゐるので、これあるが爲めに殊に尊敬を受けてゐました。が、茲にチャン王を初め狒々族全體が、直立して歩く能力を失つて、他の動物と同じく四ン這いをするやうになつた事に關して一場の物語があります。

チャン王の臣下の中で一番尨大のは象で、一番少ちやいのは蟻です。此の外に、臣下として犬と猫と鼠と各々一匹づゝ、に、小池の水、一本の杖、枯枝に燃えて居る火と、妙な物が揃つてゐるのです。諸君は火と水とは、火は火を消すもの、猫は鼠を嚙むもの、と充分知り悉いてゐらるゝ事でせうが、昔々の大昔であつたチャン王國ては、水は火を消さないばかりか、水を懸ければそれ丈火勢が却つて熾んになるといふ有樣、同樣に、猫も決して鼠を嚙まず、犬も猫と仲好く遊ぶし、杖も犬を打たないし、蟻とても象の足へ這ひ上つて嚙み付ついたりはしません。

「みんな仲好しの友達だから」とチャン王は云つてゐました。

成程一同の臣下どもは互に友達でもあるし、極く平和に安穩に暮してゐましたが、こゝに一人の黑奴の裁縫師がチャン王國へ、穴の明いた布切を持つて來たので、切角の平和が破れて了いました。

黑奴の名はイトクラーと云ひます。或日、六つの穴の明いた西洋手拭ほどの布切を持つて狒々のチャン王に謁見を求めました。

「王様へ申上げます」とイトクラーは鹿爪らしく「私は氣の濟むやうに今日はお審判をして頂き度いので。御覽の通りこの布切には何時の間にか六ヶ所も穴が明いてゐました。てつきり之は此國の鼠が嚙んだものと存じて責めました處、いや之は猫がしたのだと申します。然し猫は猫て、犬がしたのだと申します。犬が口に銜へてゐたのを見たと云ひますし、犬は又杖の仕業だと云ひ、杖は火が燒いたと云ひ、火はイヤ水がしたのだと云ひ、水はイヤ何うして、それは象が咬んだのだと勢ひ卷いて申しますし、象は象で、蟻がしたのだと逃げますので――」

「ハヽー」とチャン王は賢しげに空嘯いて答へました。

イトクラーは語を繼いで「怎んな次第で、皆が皆水かけ論の喧嘩ばかりをしてゐるので一向に埓が明きません。何うか王の面前に一同を呼び集めて事の眞相が判るやうに審判をして頂きたいのですが」

「ナル程、好く解りました。然し平和な此の國に未だ嘗て喧嘩など起つた事が無いので、まア兎に角、總理大臣に相談をしてみませうから、其處へお座りない」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉色を白くし　にきびしらず

獨逸國ドレスデン市ロールメヂシンス會社製品

皮膚特効美白新劑

チプリ化粧水

縮圖

○本品は西暦千九百六年の發明にして常用せば肌を軟密にし自然白色艶麗の美顔たらしむる事は第一の特色なり

○本品は皮膚に特効ある藥品を配劑しあるに依り「ニキビ」「ソバカス」「ハタケ」其他顔のアレ等に最も奇効あり

○本品の効能顯著なる事は試驗成績の結果に於て之を確むるを得遂に政府印紙を貼用するに至れり本邦に於て化粧水に印紙を貼用するは本品を以て嚆矢とす

○東京市内は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢(六瓶迄)相添へ本舗へ御注文あれば直送す

正價小瓶三十グラム入　金二十五錢

東京日本橋區本石町　日本一手販賣　松澤常吉

色白くつやをだす　松澤ホーサン石鹸

大形一個廿錢　小形一個十錢

(にせ物)あり右商標と松澤名義に注意

東京本石町四丁目　松澤常吉化粧品部

日本興業銀行

東京市麹町區銭瓶町(常盤橋内)

電話本局　一、二八〇〇番　三、三〇〇番　四一〇番　三七二番　(特)一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目

一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

ラクダ石鹸

本品は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故に壹度使用せば其香氣五日間馥郁としてかほりを失はざる一大特點を有す

定價(大形金廿錢　小形金拾錢)

東京日本橋區本石町三丁目芳香藥種問屋　本舗井上太兵衛

最上醤油　キハク印

一香

於聖路易博覧會名譽大賞牌受領

醸造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　信號(キハク)又(ハク)

キハク印醤油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店　日本橋區小網町三丁目　電話浪花五七七四　中野長兵衛

北辰　牛乳は最も滋養に富む

北辰社牛乳は最も滋養に富む　明治十九年二月十四日一等賞を受く

明治十九年三月十四日一等鑑定狀を受く

北辰社精製のバタ1は味佳良

東京勧業博覧會二等賞牌受領

都足袋粋乃友

○都足袋は曩に農商務省に出願して登録商標専用權を得たる物なり
○都足袋は外觀優雅にして現に都人粋士の歡迎を受けつゝあり
○都足袋は踵に縫目なく衣服の裾を傷ふ事なし
○都足袋は製作に至大の注意を拂へり故に履具合良好縫目破綻の憂なし
○都足袋は材料最も優逸にして經濟上尠なからざる効力を有せり

清涼足袋

○清涼足袋は曩に特許局に出願して登録商標専用權を得たるものなり
○清涼足袋は要局の外は單衣にして底は中部に氣孔を穿ちたる新意匠品にして盛夏の際には最も適切なるものなり
○清涼足袋は材料を最も精撰して且完全に清涼的能力を具備せるを以て啻に經濟に適する耳ならず衛製上にも絶大の効力を有せり
○清涼足袋は製作に至大の注意を拂へり履具合の可良は一點疑の存するなし

各種足袋調製所　龜屋　宮内清兵衛

東京日本橋通り室町三丁目

電話本局一七一二番　振替貯金一二三四六番

御注文品地方は代金引替郵便小包拾足以上送料自店持にて御送附可仕候

ムスク香水

(大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢)

○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり

東京日本橋區本石町四丁目　ホーサン石鹸本舗　本舗　松澤常吉　(電話本局四百四拾五番)

THE GEM

ゼム

衛生家必携　懐中良藥

愛の婦人

天の愛　土の愛　國の愛　母の愛
愛に生く日本の婦人こそ尊けれ
願くは躬親ら先づ愛し健かに
暖かに愛の道光もて世を看ませ

婦人こそ國の花
「ゼム」の玉少し宛
常日頃含まして
永遠に香ひませ

「ゼム」は頭痛逆上眩暈氣鬱を治し舟車の酔を防ぎ、消化を好くして食慾を進め、音聲を美にし、氣分を快くす。殊に馥郁たる芳香人を喜ばしむるを以て、交際界の婦人に愛用せらる。

定價七十五粒入十錢百六十
粒入廿錢四百卅粒五十錢九
百粒入壹圓容器入廿錢

東京馬喰町二丁目　愛國堂　山崎榮三郎
大阪高麗橋二丁目　山崎兄弟商會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町
同區南鍋町 京華社支店 廣告社

洗用 ワツセル

◎此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◎用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは(拾貳号)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶して拭してからじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具の解き掃除にも有効です

定價 拾貳号入 金拾五錢　六号入 金八錢　袋入二錢

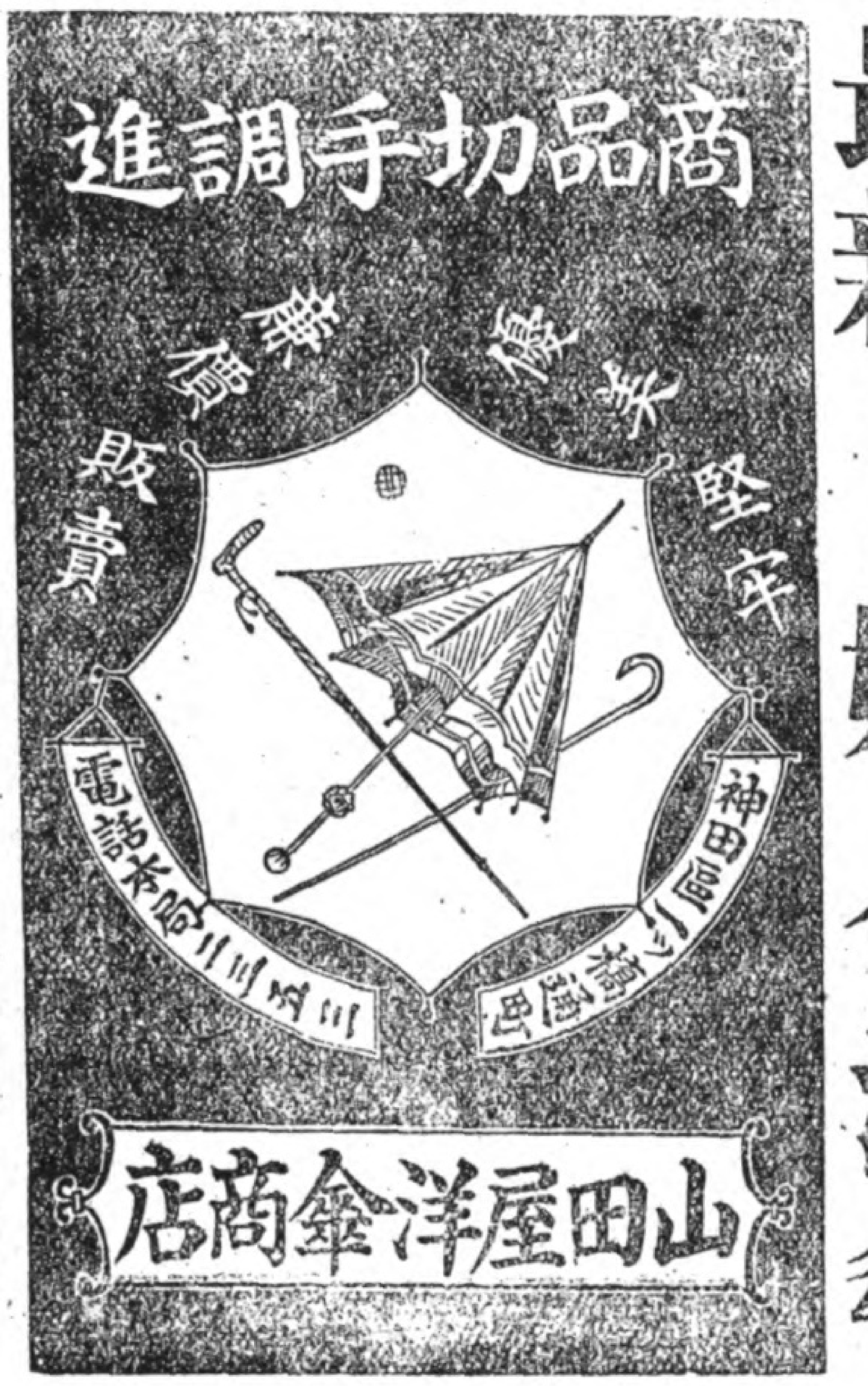
東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會

合名會社 森村銀行
東京市日本橋區通一丁目
電話(特)本局六七三番 本局四九八番

定期預金 六ヶ月以上 年六分五厘
當座預金 百圓に付日歩 一錢
小口當座預金 同日歩 壹錢參厘

於勸業博覽會賜賞牌及褒狀
裁縫はさみ各種
(定價表は御報次第送呈す)
(電話浪花八五七番)
(振替番號二九四七)
東京日本橋てりふり町
なごや

最新流行御婦人用洋傘各種



◎山田屋洋傘◎商店◎は開業以來卅◎五◎年◎堅牢優美の品を最廉◎價◎に販賣し大に江湖各位の御滿足を得たり

市内は御申越次第參上御覽に入れ申候

小栗風葉君著 天才
△定價七拾五錢△
△郵税八錢△

風葉君が其心血を傾注せる新刊の大傑作
これ一代の天地に必讀の好小説!!
陽春の東京京橋南鍋町一丁目
發兌元 隆文館

草村北星著
相思怨 定價七十五錢 送料金八錢
露子夫人 定價七十五錢 送料金八錢
澄子 定價金六十錢 送料金八錢
百合子 定價七十五錢 送料金八錢

季節向流行半襟各種

本店 神田表神保町壱番 電話本局二八五三
出店 新橋博品館階上

品川沖にて帝國水産會
社旭丸の捕獲せし稀代の
大鯱(オーシヤチ)
向島白髭神社前にて觀覧に供す

櫻花と美を競ふ最良少女雜誌

少女の友

◎四月十日發行 壹巻第三號
一冊拾錢郵税壹錢
六冊郵税共六拾六錢
十二冊壹圓拾六錢

△有益無比の少女雜誌を發行されたりとて禮狀山の如き我少女の友は又左の如き大記事を以て出ました
◎學校に於ける感心な少女の實例…三輪田高等女學校長 三輪田眞佐子
口繪 △閑院宮女王△山階宮女王各殿下△桂侯花房子各令孃肖像
◎お口直し…水野ライ子
◎露子と武坊
◎面白きわらひばなし…
◎光ちやんのお化粧
◎ポンチいたづら花ちやん
◎オリーブに就ての話…
◎鎌倉の烈婦…小町
◎姉さんの百物語…
◎花吹雪…素水
◎ハート袋の編方
◎海の學校…
◎面白ろき少女の遊戯…
◎夢の國…こみち
◎福助さん…長谷部湘雨
◎蜜蜂の話…飯塚理學士
▲讀者作文和歌俳句歡迎…
▲懸賞繪さがし…

繪草紙
家庭教育 繪ばなし 大々好評
四月五日發行 ◎五巻第四號
一冊六錢郵税五厘六冊郵税共卅八錢一年七拾貳錢

幼児に見せる玩具と教育を兼ねたる日本一の繪草紙
△いたづらポンチ△孔雀△お花見△幼児遊戯の種々△珍奇繪探がし

東京京橋區南紺屋町十二番地 實業之日本社 (振替貯金三二六番)(全國賣捌書店)

TAKA-DIASTASE

タカヂアスターゼ

世界最大の製薬工場

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

高峯氏發見消化新劑

タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。完備せる装置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、毎瓶强度均一にして、又其効力永久不變なり。

醫師及藥舖諸彥!模造品製造者の誇大なる虚僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の實品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徵し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す

代理店 東京南茅場町 三共藥品合資會社

明治四十一年四月廿日發行(毎月五日廿日二回)(定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要)(廣告料一行金六拾錢)編輯兼發行兼印刷人 山澤俊夫　持主編輯人 永田德一　發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所　發賣所 同京橋區南鍋町 株式會社隆文館　印刷所 東京牛込區市ケ谷加賀町 秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄　愛國婦人會記事

○**總裁宮殿下**　群馬支部總會御台臨の爲め、三月卅一日午前十時五十六分上野發列車にて御出發あらせらる。會長代理伊東評議員、尾崎評議員（八重子）高村救護課長、小池事務員隨行せり。奉送者は阿部、細川（子）、戶田（時子）、濱尾、高木（富子）松平（須磨子）、有地、關、柳谷、跡見、有島の各評議員、原評議員代人、東京支部幹事十六名、松平顧問、佐藤會計監督以下事務員等（殿下群馬支部御着後の狀況は別頁に記載す）猶ほ本月二日午後一時廿九分、上野着列車にて御歸京あらせられしに就て、奉迎者左の如し。

岩倉會長代、阿部、黑木、東鄉、細川（子）岩佐、松平（須磨子）、有地、千家、山本、三井（五十子）の各評議員、原評議員代、佐藤會計監督以下事務員等

○**參事會**　四月一日午後二時より參事會開會、總會準備の件等を議せり。出席者は東鄉、濱尾、松平、關、山脇、三輪田の諸氏なりき。同八日再び開會、評議員會提出議案等を審議す、東鄉、濱尾、松平、關、山脇、三輪田等の諸氏出席す。

○**評議員會日取**　本月の評議員會は來る二十二日第四水曜日に開く。

○**御葬儀**　四月十日　有栖川若宮殿下御葬儀へ本會を代表して御會葬申上たる諸氏左の如し。

濱尾作子、福島貞子、有島幸子、坂井春子、柳谷千代子、鳩山春子、岩佐千賀子、弘田增子の諸氏、及東京支部幹事等

○**各支部顧問慰勞會**　四月十一日午後四時内相及各府縣知事即ち本會各支部顧問を華族會館に招待して慰勞會を開き、總裁殿下御台臨の下に、岩倉會長各顧問、各評議員若干名出席、午後五時食堂を開き、原内務大臣を始め、來賓一同食卓につくや、直に總裁殿下より左の如き御諭旨を賜ふ。

支部顧問諸氏ハ地方政務ノ繁劇中ニ在リテ能ク本會ノ事業ヲ援助セラレ各支部今日ノ隆盛ヲ致セシハ喜フヘキノ至ナリ尚今後ノ事諸氏ノ援助ニ待ツモノ多々ナレハ幸ニ此意ヲ諒シテ益々其力ヲ添ヘラレンコトヲ望ム

次に原內務大臣來賓一同を代表して、左の如く謝詞を述べたり

今日は私始め愛國婦人會各支部顧問の御招待を蒙り、且つ總裁殿下の御諭旨をも賜りましたのは、誠に光榮と存じます。就ては今後私始め一同に於ても愛國婦人會の趣旨を普及する爲、及ぶ限り盡瘁したいと存じて居ります。

右了るや互に胸襟を開きつゝ、歡笑の傍ら本會の將來に關する計劃等に就て議し、散會したるは午後九時なりき。當日の出席來賓の氏名左の如し。

原內務大臣、北海道支部顧問河島醇、東京支部顧問阿部浩、大阪支部顧問高崎親章、神奈川支部顧問周布公平、兵庫支部顧問服部一三、長崎支部顧問荒川義太郎、埼玉支部顧問島田剛太郎、千葉支部顧問有吉忠一、栃木支部顧問中山已代藏、奈良支部顧問川路利恭、三重支部顧問有松英義、愛知支部顧問深野一三、靜岡支部顧問李家隆介、滋賀支部顧問川島純幹、岐阜支部顧問薄定吉、長野支部顧問大山綱昌、宮城支部顧問龜井英三郎、福島支部顧問平岡定太郎、岩手支部顧問笠井信一、青森支部顧問西澤正太郎、山形支部顧問馬淵鋭太郎、秋田支部顧問下岡忠治、石川支部顧問村上義雄、富山支部顧問宇佐美勝夫、鳥取支部顧問告森良、島根支部顧問若林賚藏、岡山支部顧問寺田祐之、和歌山支部顧問伊澤多喜男、香川支部顧問小野田元熈、愛媛支部顧問安藤謙介、福岡支部顧問寺原長輝、大分支部顧問千葉貞幹、熊本支部顧問押川則吉、宮崎支部顧問高岡直吉、鹿兒島支部顧問坂本釤之助、沖繩支部顧問日比重明

○**遊說員**　富樫眞喜子氏は四月四日出發長野支部下へ出張、同十二日歸京せり

○**遺族接待**　來五月靖國神社大祭に際し新に合祀せらるゝ戰死者の遺族に對し、本會に於ても之を接待する筈。

○**總會參列者に對する汽車汽船の割引**　四月下旬若くは五月上旬開催の筈なる本會總會の參列者に對しては、各鐵道及汽船會社に於て、二割乃至三割の賃金割引をなす筈にて、本會より賃金割引證を各支部に配付せり。

○**靖國神社臨時祭**　來る五月靖國神社臨時祭執行に付、本會に於ては例に依り參拜遺族の爲めに、本會構內に休憩所を設け、五月五日六日の兩日午前九時より午后五時迄接待し、本年新に合祀せらるる遺族に對し、茶菓を饗し、紀念品を贈與する筈なり、

○**本會事務員及發行所員會議**　四月十五日午後一時より、本會事務員及發行所員等の會議あり、主として總會の準備に就て議し、終つて晩餐會を催せり。

○**出張**　去る十九日京都支部に於て第七回總會開催せられしに就て、本部よりは安田事務員、發行所よりは永持編輯主任去る十七日を以て、同支部に向ひ出張せり。

○**囑託**

顧　　問	伯　爵	黑木爲楨	
東京支部長		阿部龍子	
同　顧問	正四位	阿部　浩	
千葉支部長		有吉久子	
同　顧問	從五位	有吉忠一	
富山支部長		宇佐美芳子	
同　顧問	從五位	宇佐美勝夫	
鳥取支部長		告森多賀子	
同　顧問	正五位	告森　良	
島根支部長		若林恒子	
同　顧問	從五位	若林賚藏	
高知支部長		石原靜子	
同　顧問	正五位	石原健三	
宮崎支部長		高岡梅子	
同　顧問	正五位	高岡直吉	
沖繩支部長		日比松子	
同　顧問	正五位	日比重明	

右孰れも　總裁殿下より御囑託相成たり

▽靜岡支部近況△

▽田方郡幹事部　は去る三月十五日を以て役員會を郡立三島高等女學校內に開けり。會する者鈴木幹事部長、鈴木顧問、幹事（十六名）委員（五名）支部事務員近藤鈴子等にして、午前十一時三十分開會、幹事部長の挨拶あり、次て顧問は評議事項を報告し、暫時休憩中高等女學校生徒料理の辨當を食し　各員撮影の後再開議事を開き、四月下旬の豫定なる紀念館開館の當日癈兵遺族の接待は會員に於て之を擔任する事、及其費用は各村を癈兵遺族の數に準じ一人前、金一圓宛の割合を以て之を負擔する事等を議決し了りて女生徒の唱歌あり、近藤鈴子は女子戰後の精神と云ふ事にて一場の講話を爲し、又理科教員某氏の電氣應用の實驗數種ありて、閉會せしは午後四時三十分なりき。

▽熊本支部近況△

▽飽託郡幹事部　は去る三月二十二日午後一時より同郡出水村尋常小學校に於て、總會を開催せり。式場は正門玄關の兩所に大國旗を交叉し、庭內には三角旗を吊下し、場內には萬國旗其他の裝飾を施し、婦人來賓室には會員の手に成りし挿花を陳列する等頗る華麗の趣を致せり、出席者は無慮二百五十名に上り、來賓は西島郡長代石原支部副長石川稻井河內山の三幹事河內山主事南木大寃小橋元雄の諸氏を始め、平岡財滿宇田川の各郡書記山口警察分署長村會議員區長有志新聞記者等にして、一同先つ宮本村長の案內にて着席し、最初委員として宮本氏開會の辭を述べ、次て君か代の樂を奏し、委員深水氏謹んで、皇后陛下の令旨を奉讀し、押川支部長奚浪部幹事部長の祝詞、河內山主事の支部狀況報告、小橋及稻田（新聞記者）南木氏等の演說、委員の答辭等ありて閉會を告げ夫れより茶菓を饗應し餘興に移り、春日野櫻狩常陸丸の薩摩琵琶に無限の感興を寵り、其の散會に至りしは午後五時なりしが、當日南木氏の講話は特に非常の感動を與へたりと云ふ。

▽靜岡支部近況△

▽步兵第六十七聯隊の歡迎　三月二十九日縣下濱名郡に於て步兵第六十七聯隊歡迎に際し、當支部よりは支部長李家貢實子副長昌谷稻子幹事東間輝子事務員等出張、濱名郡より幹事部長天野靜子以下會員四百餘名並に磐田郡より幹事部長稻見みつ子以下拾四名引佐郡より幹事部長小山いと子以下拾二名小笠郡より幹事壹名出席、午後一時步兵第　十七聯隊兵營內に擧行せる歡迎式場に列し、畢て同練兵場內に設けられたる園遊會場に於て濱名郡より來賓二千四百餘名に配膳すべく設備せられたる酢菜物握子供茶等摸擬店の受持其他來賓接待に從事せり、又濱松館に於ける晚餐會の斡旋は濱名郡幹事部會員專ら擔任して將校夫人、李家支部長以下各幹事部よりの來會者に對し鄭重なる饗應を爲し午後九時過を以て散會したりき、尙ほ右の外當日濱名郡幹事部よりは聯隊本部聯隊區司令部及衞戍病院に造花研究を許可せり。

▽韓國本部近況△

本月一日昌德宮宣政堂に於て韓國皇帝皇后兩陛下に二日新王城樂善宮に於て　太皇帝陛下嚴妃殿下に當本部の活動寫眞を御覽に供する事となり今般御下賜相成りたる韓國　皇太子殿下の御動作を寫したる活動寫眞其他のものを御覽に供したるに非常に御滿足あらせられ　太皇陛下には特に　皇太子殿下の御寫眞を兩度迄も御覽あり陪覽の皇族方各大臣宮內大臣等も親しく　殿下に見ゆるの感ある旨談合ありたる由。

▽救護金に對する禮狀

本會の救護狀況が常に多大の好成績を擧げつゝあるは世に認められる處なり。されば之に對する軍人遺族癈兵等被保護者の感謝狀の如き日々机上に山を成せる次第なるが今其一斑を示せば左の如し。

謹啓陳者春暖之候に相成申候折柄會長閣下には益々御健勝にわたらせられ候段大慶至極に奉存候賤しき老母も幸に天の惠み諸彥の御陰を以て當年八十七歲の高齡を重ね無事壯健に樂しき月日を送り念佛の外無之候然るに愚子新七國家に盡す職務の一端不肖の命を供したるに思ひもよらず天朝よりは老母に對し扶助料をさへ御下賜被下勿體なくも御受け申候然るに此度婦人會の方より不境遇者と御認め被下候段老婆身に取り實に感涙に咽びず難有御受申候生先もなき老婆にかくも御惠み被下も只々佛の賜と喜び居候實は都度御禮狀差上申さずば相濟まぬとは考へ申候得共無筆の悲しさ人に頼みゝ心の內の一端を老婆の身より高貴の御方へ勿體なくは候得共愚筆を以て御禮申上候敬白

福岡縣粕屋郡久原村字中久原

三月一日　　今任この

愛國婦人會長公爵夫人岩倉久子殿

明治四十年十月十二日付を以て金拾貳圓御附與相成難有拜受仕候誠に御厚情の段家族一同感銘の至りに奉存候得共如此粗文を奉呈するは却て恐れ多き儀とは奉存候得共嬉しさの餘り家族一同より乍恐御禮申上候恐惶謹言

高知縣香美郡橫山村大栃

四十一年三月三日　　徳伊募婦　細木於德

同　　父　細木五郎七

愛國婦人會長公爵夫人岩倉久子殿

謹啓御賢所樣には益々御清福大賀至極に御座候却說昨四十年十月十二日を以て一金拾貳圓也御附與被降御懇篤の福賞に難有御厚志の條奉深謝候先は乍失禮紙片を以て御禮申述候謹白

四十一年二月十三日

高知縣安藝郡田野村

清岡虎壽

愛國婦人會長公爵夫人岩倉久子殿

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支部近況

▽廣島支部　廣島市幹事部にては去ぬる廿一日午後八時より市內國泰寺村說教所に於て會員募集の講話會を開きたるが講師は銀山町德榮寺住職灘尾晃譽師にして本市同會幹事部よりは高北、落の兩幹事及び上野主任書記河島履等出張し聽衆三百餘名にて皆實村、宇品町、新開、國泰寺村邊のもの多く盛況を呈せしが終了して散會せしは午後十時過なりき

▽群馬支部　勢多郡黑保根村の愛國婦人會員が規約を設け活動しつゝある事は既に報ぜし如くなるが其結果先づ第一着手として秋蠶桑園を設置すること〻し會員は醵金を爲して今回畑二反步を借入れ魯桑四千本を植付け客月二十一日を以て全部の植栽を了せるが何れも平素鍬等を手にしたるともなき婦人なるにも拘はらず自から鍬を執り肥料を施し植栽に從事したりければ人々大に感じ合へりと而して來年よりの收穫は年々金百圓以上なるべしと

▽青森支部　青森支部にては三十日午後一時より支部樓上に於て職員會を開き西澤支部長、小原副長、柳原評議員始め出席し直轄幹事部行務報告の件陸奧丸遭難者中當市內居住遺族の內貧困者へ弔慰金贈與の件を可決し次に乙組長補缺選擧の件に移りたるに生憎乙組よりは永田幹事一人の外出席者なきを以て互選する能はず依て仝幹事の建議に基き支部長の指名に決し即ち乙組長には幹事小林こと子指名せられ引續き新囑託職員を抽籤を以て各組へ配屬すること〻なり即幹事松浦病院長夫人うめ子、久德郵船支店長夫人きよ子甲組へ仝細川技師夫人千歲子、原田驛長夫人まさ子は乙組　德永判事夫人多喜子は丙組に當籤し夫れより職員積立金は本年度も繼續實行すること四月下旬の本會總會出席者は至急申込の事等を議決し畢りて西澤支部長より本年秋季支部總會開催につき將來各位の盡力に待たさるべからさる旨を述べて職員會に缺席者多きを慨き今一段の奮勵を以て眠れるが如き觀ある狀況を挽回せさるべからすと一鞭を加へて午後三時閉會せり當日出席者は

（イロハ順）吉留、高柳、永田、久保、久德、松浦、木梨、菅沼の各幹事相馬棟方の各贊事及西谷奬勵委員

▽兵庫支部　神戶市幹事部に於ては去月十五日京都市に於て愛國婦人會京都支部總會開催に就て右參列者に對し十七日より十九日まで山科山崎間、大宮園部間、福知山新舞鶴間各驛より京都行及大河原田邊間、木津伏見間各驛より七條驛行割引證引換に二割引往復乘車劵を發賣したりとぞ

▽宮城支部　中新田町愛國婦人談話會は去月十九日加美蠶業學校樓上に於て發會式を擧行せり時恰かも海軍志願兵檢査として同兵事官及び軍醫官來郡中なるを以て臨場を請ひ大立目會長開會の辭を述べ淸水兵事官の海軍生活の狀態、軍醫官の病源病毒に關する講話及び內海蠶業學校敎諭の酸素の話し及び化學上の實驗等ありたり開會中佐藤廣原小學校訓導のヴアイオリンにて須磨、笠置落、露營の夢の曲等を奏し又蓄音器の餘興等ありたるか當日は大立目郡長並びに同夫人、富谷縣視學、今泉縣屬、郡役所員、中島町長、岡信校長其他有志者等無慮五百余名に達し頗る盛會を極めたり本會は大立目郡長夫人きぬ子氏の首唱に係り中新田町愛國婦人會員を以て組織し年三回之を開き以て會員の親睦を厚ふし併せて每會有識の士を聘し家庭敎育、衞生、養蠶等に關する講話會を催ふし一は時世の進步に伴はんことを期し一は婦人の淑德を高むるの趣旨に出てたるものにて更に來四月春期開會を催ふし大いに本會の趣旨を發揚せんと今より準備中なりと

京都支部遊說記

富樫眞喜子

第四回廣告　其二（天田郡遊說記續）

二月十六日　午前九時荒川高木兩幹事山口事務員同行中六人部小學校に到りたり十一時開會聽衆約五十余名村長有志來會す、例の如く講話午後一時閉會、晝飯を喫し直に車を馳せて下六人部小學校に到りたり、三時開會吉莨村長島村校長高橋學務委員等に斡旋の勞を執らる聽衆約三百名余、例の如く講話し六時閉會せり、直に歸路に就き福知山万喜旅舍へ荒川幹事同行歸着したるは七時なりき、夫より一旅亭に到り荒川顧問、片岡荒川、吉田、佐藤、高木、山口、越山の七幹事、山口事務員と晩餐を共にして九時歸宿したり。

與謝郡遊說記

二月十七日　午前九時五十五分福知山發の列車に乘じ同地を辭したり、前記七幹事、山口事務員は停車場迄見送らる、十時四十七分舞鶴に着、此處にて下車し、同港出帆の第二橋立丸に搭乘せし爲め連絡汽車に乘換へ、同港波止場に着、前記の汽船に乘す、約二時間を費し、宮津棧橋に着す、粟飯原、佐久間、牛窪、山內本莊、山田等の各役員、伊東事務員出迎はる、海岸なる精耶樓に投す、田邊幹事部長、同顧問、山本事務員、同夫人、小谷嘉悅町委員等來訪せらる、出迎の各役員も同行來宿せらる、種々談話を交へ、三時を報するや、共に宮津町高等女學校に到りたり、同校生徒百余名其他一般聽衆五十余名、田邊顧問を初め同校職員小谷委員各幹事列席、山本事務員開會の趣意を述べ、次に自分講話六時閉會せり。

二月十八日　午前九時宮津港出帆の小汽船に乘じ、田邊幹事部長、伊東事務員同行伊根村に赴きたり、役員數名棧橋迄見送らる、十一時伊根港に着、田中松五郎方に投す、折戸村長來訪さる、午後二時より正法寺に於て開會、聽衆約百余名、村長初め役場吏員學校職員井上贊事出席せらる田邊幹事部長開會の辭を述べ次に講話し閉會を告けたるは五時なりき、村長直に旅舍に來り今夜尙一同に講話せんことを切望して止まず、依て承諾し夕飯を喫す、會場は旅舍の階上を以て之に充つ參集者約二百餘名を數ふ八時開會の順序にて講話を終りたるは十一時なりき、本日故海軍一等水兵田中藤兵衞氏の遺族を慰問したり。

二月十九日　午前九時伊根村出發二里半余の難道を徒步して本庄村に赴きたり、當地は道路の險惡なる上に雪さへ消えやらず所によりては尺余も積るあり折節快晴なりければ天祐と喜びつゝ進み行き十一時過ぎ本庄村に着、會場なる役場に到りたり、村長不在山川助役代りて萬事斡旋せられたり、松本校長、早見訓導其他役場吏員出席す、聽衆約百余名、二時開會田邊幹事部長の開會の辭に續きて自分講話し五時終りを告ぐ、降壇するや奧田みちなる老婆大聲を發して直に入會を申込む之に續て七名の婦人即時に入會したり、各退場するや奧田みちは一人役場吏員と共に居殘り諸事斡旋す、我等は六時此處を出て雪路三里を進んで養老村に赴かんとす、彼の老婆は親切にも我等に草鞋を穿たせ途中注意すべきよしを懇々繰返し皆々別を告げ提灯を點して一行は荷持を一人（老婦）を連れ三尺余も積れる雪途を進み／＼て日向峠を上りつゝ下りつゝ寒氣益々烈しくなるにつれ男を皷して九時目的地たる養老村に着せし時喜びは譬ふるに物なし、洗足して室に入り本庄村長の來訪に接し暫時談話す夫より夕飯を喫し十二時就寢したり宿所は野田長藏氏方なり。

二月二十日　午前九時品川村長中江校長等來訪十一時より會場なる顯性寺に到りたり聽衆約百余名、例の如く講話し午後一時閉會せり、岡田かず代は直に通常の一時出金をなし尙二名入會を申込みたり、旅舍に歸り晝飯を喫し二時過ぐる頃同港より小舟に乘し岩瀧村に赴きたり、此日風波荒く加之日は漸く傾き府中港に着したるは六時頃なりき、此處にて亦他の舟に乘り換へ岩瀧港に着したるは八時過ぐる頃なりき、糸井旅舍に投す九時過ぐる頃夕飯を喫し十一時頃に就きたり

二月二十一日　午前九時糸井村長來訪全十一時會場なる四光寺に到る糸井幹事外兩三名の役員出席斡旋されたり、聽衆約百五十余名町田校長開會前に蓄音器を使用して來會者の耳を喜ばしたり、開會を報ずるや、田邊幹事部長開會の趣意を述べ次に例の如く講話午後一時過閉會せり、全寺にて辨當を食し直に各員に別れを告げ車を飛して市場村字四辻村にと向ひたり三時過着直に會場なる四辻倶樂部に到り小谷委員を初め山添小泉板根等外數名の役員に迎へられ直に會場に向ひたり、聽衆約四百余名板根村長山田村長新學校長外有志職員列席す、例の如く講話を了し後に新校長も一場の談話をなし、閉會を告けたり時正に七時なりき此より宿所又一方に到り小谷委員を初め幹事會員四十余名と晩餐を共にし本會擴張上に就き懇談し十時頃各歸宿されたり

二月二十二日　午前八時山添小泉板根の三幹事來宿加悅町よりは杉本稻田の兩役員迎ひ來られたり一行は此五人と同行し加悅町に赴き有馬淸治方に投す、小谷校長は宿所にて待受けられ西原下村早見稻田永井倉橋有吉伊邊細井等の各役場員續々來宿、小谷婦人も來訪されたり、晝飯後學校生徒の抹茶の饗あり、午後二時半會場に至ればさしも廣き實相寺の堂宇は殆ど立錐の餘地なく其數約七百余とす、小谷委員開會の辭を述べ次に講話六時閉會せり、檜山町長夫婦も來會頗る盛會なりき、當加悅各方面は一昨年故奧村刀自の遊說後頓に會員を增し目下二百五十余名の會員を存し殊に小谷委員の熱心盡力さるゝと各小部會を開きて益會員の親睦を計り意志を疏通せしめて智德を研磨するに務めらるゝを以て能く一致協力して益其實を擧くるに汲々たる樣は實に模範として稱揚するも決して過言にあらずと信す

犧牲の勇士

元陸軍步兵一等卒田中直一氏は先に步兵第四十二聯隊に屬しゝが日露戰役の際奉天附近に於て重き銳創を蒙りし爲遂に兵役を免除せられたるものなり。家族十一人內五人はそれ／＼異鄉にありて、或は藪燒業を爲し或は他家に奉公し、今現に家にあるは戶主にして父なる光三郞氏を始め七人なるが、實際勞役に堪ゆる者は唯父母あるのみ、擧家農耕を以て主たる稼業となし、傍ら紙漉業及農日傭をなしつゝありしも少からざる債務を負ひ、且異鄉に在る者及奉公せる者は、只自己の糊口を凌ぎ得るの狀態にして一家の爲に依據するに足らず、漸く癈兵直一氏が受る免除並增恩給年額八拾二圓を以て、一家の生計を支持するのみなれば、其困難見るに忍びざるものあり、遂に山口支部は山口縣と協力を重ね、爰に適當の職業を授けて其急を救はん爲、烟草小間物日用品仕入資本金として金五十五圓を醵出して之を給與し、以て斯業を營ましめたり、幸にして地民の同情により商品の賣行比較的良好にして、一日平均四拾五錢の利潤を得て生計上些の困難を告げざるに至れりと云ふ。次に元陸軍步兵上等兵上村直三氏も同じく第四十二聯隊に屬し日露戰役に出征して、大台附近の戰鬪に重傷を負ひ、兩足を切斷するに至り兵役を免除せられたるものなり。家族は兄平助氏との二人なるも平助氏は目下海外に出稼中にて家にあらず、癈兵直三氏は應召前他家に奉公せしが、免除後は毫末も資產なきため何等の職業にも就くこと能はず而して亦賴るべき近親とてもなく、其困苦の現況慘狀を究む。因て山口支部にては山口縣廳と商議を遂げ「ミシン」器機を購求して之を給與し、郡村團體は亦癈兵直三氏及附添人の食費を補給せん爲金百圓を給與せり、癈兵直三氏は是第一の援護に據りてミシン裁縫の傳習を受け、勳章の年金百圓の內を是か資金に充て、目下該業を開始し居れるが、一日平均貳拾錢の純益あるのみならず、恩給年額金百三十圓を受くる爲、遂に妻を迎へて一子を擧げ、一家團欒の裡に同心協力其稼業に勤めつゝあるを以て生計上些の困難を告げざるに至りし由、いづれにしても斯く國家の爲に犧牲となりたる勇士等の事なれば、世上篤志の人々の厚き同情と援護こそ望ましき極みなれ。

▲パール　▽毛髮用香油パールは他の各種の香油類と異り、長く芳香を保つを以て、需用の販路極めて廣く婦人及男子間に於ける聲價頗る多大なりとぞ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

群馬總會

愛國婦人會群馬支部第二回總會は、四月二日前橋中學校構内式場にて擧行されたのである。

總裁殿下上野停車場御出發の砌、春の日うらゝなりしに似もやらず、今日朝來天候の陰惡なることの氣遣はしさよ。殆んど當市開闢以來の盛裝を、この風、この雨に可惜打ち毀たんにはいかに、さしも數日前より支部の人々思を凝らし、夜を徹して出來上りたる此の總べての準備の、この天候の爲め、半は打ち毀たれたらんには如何にと、われ人ともに、安き心もなかりしに、擧式前、天候全く快晴に復せるは、寔に天祐と云ふべきか。

頓て、さしもに廣き式場も、紋服婦人の麗はし花の姿の五千人に埋められたる午前十時兩殿下御機嫌麗はしく御着車あり、御休憩所にて御少憩の後、同十時三十分奏樂、諸員最敬禮の中に式場に御臺臨があつた。支部長南部幸子は職員名簿會員表を捧呈し、開會の辭を述べ、次いで卅七八年戰役に關し、本會に賜はりたる　皇后陛下の御令旨を拜讀、一同最敬禮、次に總裁殿下には一同最敬禮の中に玉音麗はしく

愛國婦人會群馬支部第二回總會を開くに方り諸氏と親しく相見るは最も欣喜に堪へざる所なり

惟ふに當支部の事業は年を逐ふて發展し業務の見るべきものあるは諸氏熱誠盡力の致せし所なり尙ほ一層進て斯會の擴張に努め本會の目的を達せんことを望む

明治四十一年四月二日

と御朗讀遊ばされ、次に南部支部長は兩殿下の御前に進み

茲に愛國婦人會群馬支部第二回總會を開くに方り畏くも

總裁殿下の御臺臨を辱うし特に優渥なる御令旨を賜はりたるは當支部の洵に光榮とする處なり今より益す力を協せ心を同ふして本會趣旨の普及を圖り併せて會務の整理に努め以て御令旨に副ひ奉らむことを期す謹みて答ひ奉るになん

明治四十一年四月二日

愛國婦人會群馬支部長　南部幸子

の奉答あり。つゞいて會長代理伊東元帥夫人は

祝詞

我が愛國婦人會群馬支部は會員漸次增加し事務も亦整頓し茲に本日をトし第二回總會を擧行せらるゝは久子の深く喜ぶ所なりおもふに軍人遺族癈兵の境遇は實に憐むべきの至りにして之を見聞するもの誰か同情の涙をそゝがざらんや本會は夙に其慘狀を坐視するに忍びず之れが救護を主旨として興りし以來茲に八年の星霜を閱し其事業稍緖に就きたるが如しと雖も往年日露の大戰役を經この憐むべき遺族と癈兵とは更に一層の多數に上り本會の業務愈々繁く其責任も亦益々重きを加へたり望むらくは來會の姉妹方よ向後進んで熱誠事に當り本會事業をして遺憾なからしめんことを期し一は

總裁殿下の深厚なる臺旨に副ひ奉られん事を聊か所思を述べて祝詞に代ふ

愛國婦人會長　岩倉久子

と朗讀し、更に顧問南部知事は

祝辭

本日愛國婦人會群馬支部第二回總會を開催するに方り　總裁殿下の臺臨を辱ふするを得たるは洵に光榮の至にして本會の感激措く能はざる所なり

顧ふに明治三十七八年戰役に際し本會の活動善く其の任務を盡すを得たるは愛國の美德に富み會員諸氏の熱誠なる贊助の効に因ると雖も又　總裁殿下の御盛德の然らしむる所にあらずんばあらず而して曩に第一回總會を開き爾來事業を擴張し會務を整理し會員の數又多きを加へ當支部今日の盛況を觀るに至れるは國家の爲め深く慶すべきなり今や戰後の後を承け忠死者の遺族及癈疾者の救護一日も忽にすべからざるものあり本會事業の前途尙頗る遼遠なりと謂ふべし會員諸氏庶幾くは自今一層奮勵努力本會の趣旨を貫徹せられんことを一言以て祝辭となす

明治四十一年四月二日

愛國婦人會群馬支部　顧問　南部光臣

と朗讀、猶ほ會員總代檢事正夫人河西龜子氏は正面の階段半ばに進み

祝辭

愛國婦人會群馬支部創立以來著しく會員の數を增加し事業年を逐ふて發展し本日畏くも　總裁殿下の御覽臨を仰ぎ茲に第二回總會を開くの盛運に至れるは誠に會員一同の喜に堪へざる所なり今より尙一層努め勵みて本會の發達を圖り以て博愛慈善の趣旨を完うせんとを期す聊か一言を述べて祝辭とす

明治四十一年四月二日

愛國婦人會群馬支部　會員總代　河西かめ子

と朗讀し、それより有功章の御親授があつた。その氏名左の如し

特別徽章　碓氷郡幹事部長　高村てい子
一等有功章　勢多郡幹事部長　福田里子
同　新田郡幹事部長　淸水信子
二等有功章　評議員　江原とよ子
仝　群馬郡幹事部長　橋本さの子
仝　多野郡幹事部長　關くま子
仝　北甘樂郡幹事部長　墻好子
仝　吾妻郡幹事部長　山崎けい子
仝　利根郡幹事部長　直井つや子
仝　高崎市幹事部長　矢島峯子
仝　吾妻郡幹事　木檜みゝ子

前橋市（以下三等有功章）
河西かめ子　關口なか子　田中京子
中村きぬ子　藤波みを子　渡邊ゆう子
新井よし子　竹內てつ子

勢多郡
今井ひて子　淸水忠次郎

群馬郡
皆川ひろ子　松本てふ子　德江ゆく子
五十嵐いし子　小池きく子　發地はま子
小池やす子　高井きち子　上利のぶ子
羽鳥まつ子　天田とき子　田中かく子
上原きな子　關口美子　紋谷てい子
田中こう子　山口さと子　下田さわ子
市川みつ子　大山たけ子　柳岡のり子
高野くに子　南雲ことじ子　石坂きし子
大竹たみ子　都丸ちか子　都丸いせ子
佐島けん子　柴田はん子　平形きい子
高橋ちか子　佐藤とら子　淸塚もよ子
追川やゑ子

多野郡
千木良とう子　佐藤ひろ子　若林はな子
根岸あい子　高山よし子　堀口りか子
上原かね子　大戸せん子　三木きぬ子
横山こう

北甘樂郡
神安はる子　中村たけ子　岩井こと子

碓氷郡
半田たか子　半田みか子　柳澤常吉
石井傳子　有坂ふさ子　原田いさ子
吉田たか子　小板橋ちせ子　湯淺とみ子
古島ちよ子

吾妻郡
菅谷いつ子　町田ふさ

利根郡
幸原てい子　松永ます子　增田いそ子
生方おく子　林みぶ子

山田郡
書上かよ子

邑樂郡
鎗居まき子　若旅しま子　高瀨しん子
高津みね子　仁木いね子　篠原まさ子
小林やう子

佐波郡
羽尾みを子　下山なか子

高崎市
瀧川なを　橋本節子

續いて癈兵總代步兵大尉佐藤一也氏遺族總代稻葉秀作氏へ特別御下賜金御授與あり、右終りて後、伊東元帥夫人、鍋島侯爵夫人は南部支部長、相良支部副長の御案內にて階段を降下、式壇の正面なる癈兵及遺族に對し、鄭重なる慰問の辭あり君が代奏樂中に御退場に成つたのは午前十一時卅五分、

それから來賓、佩有功者、新聞記者等には講堂で茶菓の饗應があり、兩殿下にも御臨場遊ばされたのであつた。

以上は當日次第の槪略であるが、要するに　兩殿下御臺臨を縣の名譽として、會の幹部の人々初め、此等の重要の地位に在る人々の粉骨碎身努力せられたのは實に感謝の他は無い。

愛國婦人會群馬支部主事津金豐昵大人は多年同會の爲に、力を致し此度の總會の如き、同君の功績を觀るにあまりあり、乃ち其のいさをしをたゝへまつる

常政

ひらとてつきをかさねとしをおくりてよのために
ちからをしまぬ君にもあるかな
ところせくさける千草のはなのいろに
つちかふひとのこゝろみえけり
國のためまとゐのためにつくしてし
いさをそたかくあふかれにける

靖國神社例祭に於る新合祀者の參拜遺族諸士に告く

來五月靖國神社例祭に於ける新合祀者の參拜遺族諸士に對しては、本會にても構內に接待所を設けて之を接待致候間、此段謹告候也

明治四十一年四月廿日

愛國婦人會

追而當日新合祀者の參拜遺族諸士に對しては紀念品を呈し候

商品切手調進仕候

甲斐絹屋

本店　神田區小川町　電話本局四八九

支店　京橋區銀座　電話新橋八三三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(Question) 人婦は何故西洋忍化粧(ヤツコ)を方より愛用さるゝのでしよう?

(Answer) ヤツコは白粉と違ひ手數を掛け顏へ塗りつけるのでなく一寸顏を洗へば忽ち色白く艶を出し顏の小皺をのばし化粧をして化粧と見せず眞に天然の美の如く觀せるからであります!!!

(Question) あらひ粉石鹼又は化粧水などで素顏を奇麗にしたのと同様であります

(Answer) 俗て日本で日常愛用すれば大に趣が違ひ其特色とする事は顯す顏色をルタシノケヌクアに謂る所でありますから論より證據使用て御覽なさいよ!!!

女優マダム 川上貞奴 化粧問答

(Question) 近頃流行の西洋髪あらひ(マダム)は毛の爲めにはがいはありません?

(Answer) マダムは内務省東京衛生試験所に於て毛髪に對し無害の御試驗濟であります!!!

(Question) 洗ひますのに何分間掛ります?

(Answer) 微溫湯て僅か一分間に毛を傷めず赤くせず奇麗に髪が洗へ升る最新發明の輕便髪あらひであります!!!

(Question) マダム　ヤツコ原品直輸入元弁に賣捌ところ

(Answer) 東京市外神田御成道田代町(電話下谷一三九九)(振替貯金番號四五三九) 治丹中田 方にて賣捌は東京。横濱。名古屋。大阪。京都。神戸。市内各小間物店賣藥店其他全國到る所に有り若し無き時は隨意の金高を販賣元へ送金次第急送す

醫院案內

院長 醫學博士 榊順次郎 (婦人科産科 每日午前診察)
副 醫學士 久保德太郎 (婦人科的外科 外國留學中)
副 醫學士 田代謹二 (婦人生殖器 泌尿器病及内科 一般火木土午後診察)
●施診火木土自午後一時至二時
婦人科産科 榊病院
麹町區三番町三三(電話番町三一九五)

院長診察月、水、金、午前、松田醫學士診察火、土午前、窮者施診火、木午前入院診斷後隨時應需
松田、林、兩副長ハ目下當院ニ在勤、
電話本局八八八(病院用) 八九八(私宅用)
東洋內科醫院
東京市神田區駿河臺鈴木町二番地(御茶水橋畔)

院長醫學士高田耕安
神奈川相州高座郡茅ヶ崎村濱(停車場所在)
南湖院
河野、中村、兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後○同時窮者施診
副長診察月、火、水、木、金、土午前○入院診斷隨時應需○

內科專門 杏雲堂醫院
神田區駿河臺 電本一六六九
院長醫學博士 佐々木政吉

岩佐病院
日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地(電話浪花六九七番)
診察時間 自午前九時至正十二時
內科婦人科 院主 岩佐純
內科 院長 ドクトル 岩佐新
內科(獨逸留學中) 副院長 醫學士 高田壽
外科 醫學士 山村正雄
産科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

○院長 ドクトル 木村順吉
京橋卅間堀一丁目角(電話新橋二二六七〇番)
婦人科産科 木村病院

內科一般 板垣亭
東京神田美土代町三丁目十九番地
午前宅診 午後往診
電話本局貳千九百七十番

産科婦人科專門 岩田病院
診察每日午前 入院隨時
淺草區左衞門河岸
電話下谷一〇二八

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山內科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

京橋區南大工町三
●(火木土)院長醫學博士岡田榮吉●
●(月水金)副院長醫學士久野正太郎●
岡田病院
電話本局二四〇一

神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネル 峰秀世
峰內科醫院

午前宅診午後往診 入院隨時
內山小兒科醫院
淺草區下平右衞門町十七番地
柳橋通り(電下二三六五)

耳鼻咽喉病診療 中村醫院
入院應需
淺草區向柳原町一丁目二番地左衞門橋通り

●外科
午後往診 夜間診療
醫學士 三原新太郎
本郷區元町一の十四(淨水地西南隅)

腦病脊髓病
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇
神經痛運動障害等
●午前 自宅 神田多町壹ノ八
●午後 岩佐病院 日本橋區蠣殼町
醫學博士 土田卯三郎

◉婦人病專門 櫻井醫院
芝明舟町十九虎門外宮樣前 電話新橋三三二四
院長 櫻井克己

小兒病診療
淺草區福井町貳番地
宅診午前 往診午後
醫學士 內田愼太郎
●電話下谷七一八番

齒科治療 ドクトル 齋藤淸太郎
麹町有樂町帝國ホテル向(電本千五百十九)

Crème Simon

登錄商標

皮膚の營養上 衛生美顏『シモン、グリスリン、クリーム』
容貌の美のために特に薦撰する良劑

『シモン、クリーム』は近頃の製造品ではありません久しき以前より御使用と御評判を受けて居るのであります

『シモン、クリーム』は一種の强壯劑と皮膚を柔かくする藥劑とを配合して製造したる衛生上無比の良品であります

『シモン、クリーム』は皮膚を白くし且つ滑かにして表面がすべ〳〵となり又天鵞絨の如く艶麗ならしめ又快よき香氣を發します毎日御化粧の時に御使用になれば何時でもつやつやしき容貌を保たれます

『シモン、クリーム』はヒヾ、アレ、日ヤケ、ニキビ、唇のわれ、霜やけ、汗も、赤ら顔、又は毒虫に刺された時にお塗りになれば僅か少時間で其効能が分ります又髯剃の後や小供衆に塗抹しますとすべ〳〵として大變氣持がよく、又美しくもなります

本品は販路が益々擴張されるに從ひて僞物が多く市場に出て居りますから御求の際は「シモン、クリーム」「粉おしろい」「石鹸」共特に登録商標を御確めの上御購求願ます 東京及大阪の三越呉服店を始め各地の洋品店化粧品店に販賣致して居ります

日本代理店 横濱七十番 エー、ハイム商會

春季節草花 花植物形 半ゑり帶揚類

花季用シヨール　友染刺繍片側帶　絞り兵兒帶　長襦袢　襦袢袖　下締　ネクタイ　伊達巻　千代田袋　前掛　裾よけ地　け出し　友染反物　丸帶　絞り手がら　まげ形

諸刺繍 友仙 絞り形 總絞り紅白
流行無地 白刺繍 白紋縮緬出しるい
斬新意匠優美 高尚 生粹雅致有り
卸賣は特別割引 御相談仕候

新橋竹川町十貳 電新二〇二七 本店 ゑり治
神田表神保町壹 振替貯金口座四四〇壹番 電話本九五二 支店 ゑり治
新橋際博品館階下出張店 ゑり治

雜報

△重寶なる臺所器具▽ 臺所道具も日に月に改良進歩し便利な物も色々ありますが名和式燕爐器も確かに其の一つでしやう其の構造の主眼とする處は經濟にして手輕て利便なるに重きを置いたものだ四角箱形金屬製の物で焜爐に掛る樣に出來て居る内部空間は室もなし二段若くは三段のさんを有しテンパン又は金網を以て其の用に充てたもので焜爐一つの火で即座に日本料理も西洋料理も出來る譯で殊に來客の節などには此上なき重寶な品である

△稀代の大鯱▽ 帝國水産株式會社遠洋漁船旭丸が品川沖に於て六時間大奮鬪の末漸く捕獲したる鯱は其長さ三十尺餘胴廻り二十二尺餘目方二千五百貫餘にして空前の大鯱にて之を擊ち捕りしは漁船の偉功と云ふべし今回學術上の參考に供する爲め四月十二日より向島白髭神社前にて公衆の觀覽に供せしに非常の喝采を得て日々雨天にも不拘見物人山を爲すと云ふ

社告

本誌廣告によりて買物せらるゝ際は本誌の旨先方に申添へられんことを望む

懸賞文學雜誌

▶每月壹日定期發行 增刊四回臨時二回
●口繪彩色寫眞外誌友面影數頁皆美麗
▲大判白卅頁 挿畫澤山挿入
▲內容は本誌に就て乞御覽
▲安い事無類
價 一冊送共拾壹錢半 年分八拾四錢 壹年壹圓卆錢
●臨時增刊に限り例號二倍

●第四年五號 四月一日發行 內容豐富 ▲價送共金拾壹錢

●四月十五日臨時增刊(第六號) 懸賞傑作 文壇の花 二百五十頁 價送共廿二錢

●本誌は何處の雜誌店でも賣て居ます若しなくば本社へ注文を乞ふ ●壹號より取揃あり

發行 東京京橋大鋸町 振替東京一七貳九番 女子文壇社

大賣捌、東京堂 東海堂 北隆館 上田屋 良明堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY

愛國婦人第百五十一號附錄

國婦人會群馬支部職員小肖

明治四十一年四月廿日(毎月二回五日廿日)發行　明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

佩二等有功章(北甘樂郡幹事部長)
塙好子

佩一等有功章(利根郡幹事部長)
高村てい子

佩二等有功章(吾妻郡幹事部長)
山崎けい子

佩一等有功章(高崎市幹事)
蠣谷操子

佩二等有功章(高崎郡幹事部長)
矢島みれ子

佩二等有功章(北甘樂郡富岡町幹事)
清水つれ子

佩三等有功章(前橋市幹事部長)
稲葉英子

佩三等有功章(前橋市幹事部顧問)
稲葉秀作

佩一等有功章及特別徽章(群馬郡幹事部長)
今村順子

佩三等有功章(群馬郡大類村幹事)
根岸紬子

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所 愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN